



学校法人
日本赤十字学園
Japanese Red Cross Academy

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

ANNUAL REPORT

学校法人日本赤十字学園 令和2年度事業活動のご報告



赤十字の人道の理念を 教育の基調として

学校法人日本赤十字学園 理事長 **大塚義治**



日本赤十字社による看護職養成の歴史は130年余を数えますが、学校法人日本赤十字学園は、その高等教育部門として昭和29年に創設され、現在では、全国に6看護大学7看護学部と6大学院、1短期大学を設置・運営しております。この間、皆さまのご支援のもとに、約2万1千人に上る卒業生を輩出し、わが国医療・看護分野の発展に大きく寄与してきたものと自負いたしております。

その一方、少子化や看護系大学・学部の増加による競争の激化などの環境変化に加え、最新医療に対応した高度な教育環境の整備、情報通信技術の維持・拡充、そのための財源確保など、近年の大学運営においては、新たな多くの課題も抱えるに至っております。

さらに、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応という困難に直面いたしました。各大学では感染予防対策をはじめ、オンライン授業や病院・施設実習に代わる学内実習の実施など、例年とは異なる対応を余儀なくされましたが、学生の皆さんの理解と協力を得て、教職員が一丸となってこの事態を乗り越えることができました。関係者の努力に、心から敬意を表したいと思います。

このような厳しい状況のなかにあっても、各大学はその使命に基づき、質の高い特色ある教育を実践しつつ、社会の変化、不測の事態にも柔軟に対応できる体制を整え、数多くの看護系大学の中から、学生、保護者そして教員に選ばれる魅力ある大学であり続けなければなりません。

そのため、第一次中期計画(平成21年度～25年度)、第二次中期計画(平成26年度～30年度)に続き、令和元年度から5年度までの5か年を実施計画とする第三次中期計画が策定されておりますが、これを道標として、学園各大学の教学及び運営機能の向上を図り、高い実践能力を発揮できる組織および経営基盤の構築を目指して、引き続き取り組んでまいります。

これからも各大学の特色を活かし、看護・介護の専門職としての高度な知識と技術に加え、人と痛みを分かち合い、患者に寄り添うことができる、心の豊かな人材の育成に全力を傾けてまいります。

皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



建学の
精神

「人間のいのちと健康、 尊厳を守るために 力を尽くす人材を育てる」

現実を踏まえて理想を忘れず、今、手元にある苦痛を一つでも
取り除く努力によって理想に近づく。

これが赤十字の「人道」です。

赤十字の「人道」は、医療や福祉の分野における原点と言えます。

学校法人日本赤十字学園は、赤十字の人道の理念に基づき、

人間のいのちと健康、尊厳を守る担い手として

地域で、世界で活躍できる人材を育成します。



CONTENTS

日本赤十字学園の
看護大学・大学院・短期大学 …… 02

【特集】各大学が最も力を入れた事業 …… 04

日本赤十字学園第三次中期計画 …… 06

〈学園全体の動向〉 …… 07

〈各大学・短期大学の動向〉

● 日本赤十字北海道看護大学 …… 08

● 日本赤十字秋田看護大学 …… 10
日本赤十字秋田短期大学

● 日本赤十字看護大学 …… 12

● 日本赤十字豊田看護大学 …… 14

● 日本赤十字広島看護大学 …… 16

● 日本赤十字九州国際看護大学 …… 18

〈事業の概要〉

学生の動向 …… 20

教育活動の動向 …… 25

研究活動の動向 …… 26

奨学金の受給状況 …… 28

日本赤十字国際人道研究センター
の動向 …… 30

〈財務の概要〉

資金収支決算 …… 32

事業活動収支決算 …… 34

貸借対照表 …… 36

財産目録 …… 38

参考(過去5カ年の財務データ) …… 39

〈法人の概要〉

学園の沿革 …… 42

学園の組織/教職員の概要 …… 43

役員・評議員一覧
理事会・常務理事会・評議員会の
開催状況 …… 44

各大学・短期大学の施設概要 …… 45



得られる受験資格・取得資格

-  看護師
-  養護教諭
一種免許
-  保健師
-  介護
福祉士
-  助産師



日本赤十字 広島看護大学

創設:平成12年(2000年)

～“人道”の心で
人とつながる看護を学ぶ～

	取容定員	入学定員
看護学部 看護学科   	500	125
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2



日本赤十字 九州国際看護大学

創設:平成13年(2001年)

～ひとりを見る目、その目を世界へ～

	取容定員	入学定員
看護学部 看護学科  	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程 	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2



日本赤十字 豊田看護大学

創設:平成元年(1989年)

～地球に寄り添う看護～

	取容定員	入学定員
看護学部 看護学科  	480	120
看護学研究科 看護学専攻 修士課程	20	10
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程	6	2

[各大学院における専門看護師教育課程]

大学院名	教育課程
日本赤十字北海道看護大学大学院	慢性看護、精神看護、がん看護※
日本赤十字秋田看護大学大学院	がん看護、精神看護
日本赤十字看護大学大学院	がん看護、小児看護、慢性看護、クリティカルケア看護、精神看護、老年看護、災害看護、在宅看護
日本赤十字豊田看護大学大学院	小児看護、精神看護
日本赤十字広島看護大学大学院	がん看護、小児看護、精神看護、災害看護
日本赤十字九州国際看護大学大学院	クリティカルケア看護、在宅看護

※は休講中



日本赤十字 北海道看護大学

創設:平成11年(1999年)

～手渡しの看護を～

		取容定員	入学定員
看護学部 看護学科	 	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		32	16
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程		6	2



日本赤十字 秋田看護大学 日本赤十字 秋田短期大学

創設:平成8年(1996年)

～「生きる」を支える人になる～

		取容定員	入学定員
看護学部 看護学科	  	400	100
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		24	12
看護学研究科 共同看護学専攻 博士後期課程		6	2
短期大学 介護福祉学科		60	30



日本赤十字 看護大学

創設:昭和29年(1954年)

～Vision for Humanity
-人道の実現に向けて～

		取容定員	入学定員
看護学部 看護学科	 	540	130
さいたま看護学部		80	80
看護学研究科 看護学専攻 修士課程		60	30
看護学研究科 国際保健助産学専攻 修士課程		30	15
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程		24	8
看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程5年一貫制		10	2



[各大学における認定看護管理者教育課程]

大学名	教育課程
日本赤十字看護大学大学院	看護管理学領域
日本赤十字豊田看護大学大学院	看護管理学領域
日本赤十字広島看護大学大学院	看護教育・管理学領域

[各大学における認定看護師教育課程]

大学名	教育課程
日本赤十字広島看護大学	摂食・嚥下障害看護



令和2年度 各大学が最も力を入れた事業

日本赤十字 北海道看護大学

新型コロナウイルス感染防止対策本部会議の立ち上げ

新型コロナウイルス感染症拡大の状況において、2月6日のホームページ上に学生向けに注意喚起を掲載しました。その後2月28日に北海道知事が緊急事態宣言を発出したことを受けて、臨時経営会議を開催し、3月2日からは入構規制を実施しました。臨時経営会議は通常の経営会議メンバーに学校医を加え、週1回のペースで新型コロナウイルス感染症への対応・対策を議論し、本年度より臨時経営会議を「新型コロナウイルス感染防止対策本部会議」に名称変更し、現在(R3.3.22)まで週1回のペースで49回開催しました。

議題により、教務委員長・実習検討委員長・情報システム委員長・入試委員長を加え、学生・教職員・保護者等への周知がタイムリーに行えるよう協議・決定しています。特に、臨地実習に望む学生には、実習参加のための行動制限(アルバイト期間の制限、旅行禁止等)を制定し、「ウイルスをもらわない・うつさない」ための厳しい対応を実施しています。



新型コロナウイルス感染防止対策本部会議

日本赤十字 秋田看護大学 / 日本赤十字 秋田短期大学

包括的連携協力協定の締結

日ごろ本学看護学部の公衆衛生看護学領域において学生の教育にご協力をいただいている秋田市内2つの社会福祉法人と、包括的連携協力協定を締結しました。この協定は、本学と社会福祉法人が相互の密接な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、地域住民の健康増進およびヘルスリテラシー(自分に合った健康に関する情報を集め、理解し、活用できる力)の向上、活力ある地域社会の形成と発展、及び人材育成に寄与することを目的に締結されたものです。

本協定の締結により、地域の保健・福祉の向上、文化・教育・学術研究の振興及び発展のみならず、本学における学修成果に関する情報が、学生の就職先の採用プロセスにおいて有効に活用されるよう、学修成果として含めるべき内容及び学修成果に関する情報の示し方等についても、積極的に協議されることが期待されています。



包括的連携協力協定締結式

日本赤十字 看護大学

さいたま看護学部の開学

さいたま看護学部は、4月に無事、開設を果たしましたが、コロナ禍により入学式は中止、学生は在宅学習によるスタートとなりました。それでも5月には遠隔授業を開始し、6月からは図書館・情報処理室などの大学の施設利用も可能となりました。8月中旬には対面での夏季集中授業を行い、これに先立ち入学式の代わりとしてミニ・セレモニーを2クラスに分けて実施しました。後期からは、演習科目を中心に週2日の対面授業を実施し、やっとキャンパスらしくなってきました。

学生は、前期の遠隔授業で学修した知識を、実際の演習で十分に活かし、後期からは、学生自治会を中心に学内クリスマスイベント、防災資機材の確認事項や避難方法等の防災訓練解説動画の作成、感染防止対策等、学生の感覚を生かした活動も展開しています。

初めてのレベル1実習も残念ながら学内での実施になりましたが、学生は患者役の教員や模擬患者を対象にケアを実施し、それまでの学修成果を実感していました。



8月の入学式ミニ・セレモニー

コロナ禍における本学の取組み

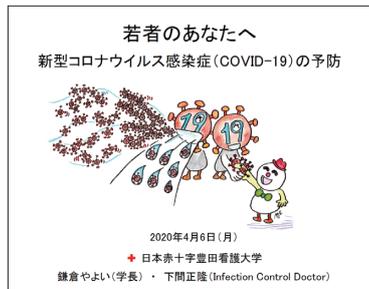
今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、私達の生活は一変しました。本学では、3月に新型コロナウイルス感染予防対策本部を設置し、「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る」の基本方針のもと、様々な活動を行いました。

遠隔授業、オンデマンド動画配信と対面式授業を計画的に配置して教育

の質の保証に努めつつ、遠隔授業への移行に際し、学生への貸出し用のタブレットの整備、学内のWi-Fi整備などICT環境を充実させました。生活環境面では、手指消毒剤やマスクの配布、食堂の衝立の設置や講義室の座席指定、換気促進のためのサーキュレーター等の備品を整備しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策の教材として、本学教員の自作イラストを多用して、スライドや冊子を制作し、ホームページやSNSで公開しました。現在、このスライドは全国の大学、小中高や病院、介護施設、企業などで活用されています。

令和3年度には、豊田市が実施する予定の新型コロナウイルスワクチン接種の主会場に本学構内を提供し、教職員も接種業務に協力します。これからも本学は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に全力で取り組みます。



若者のあなたへ



新型コロナウイルスワクチン接種シミュレーション訓練

コロナ禍においても「全員参加」で学ぶ

世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響により、本学においても学年全員が同じ教室で一堂に会しての講義ができなくなる事態となりました。本学では幸い、学生・教職員の誰からも感染者を出すことなく、6月から対面授業を再開することができ、現在に至っています。

対面授業では、感染防止のため、講堂や講義室を複数使用し、ソーシャルディスタンスを保って着席し、講義の画像や音声をリアルタイムで隣の講義室へ配信する「遠隔授業システム」を構築しました。アクティブラーニングにも対応でき、遠隔先(サテライト)の学生たちの様子も教員が把握できるようにするなど、教員と学生とが以前と変わらず全員で参加しているような、一体感のある講義をできるよう工夫しながら、教育の質を保証するように努めました。

なお、本システムの整備には「令和2年度学校情報機器整備費(遠隔授業活用推進事業)補助金」を活用しました。



遠隔授業システム

一人ひとりの学びと健康をサポート

前年度に終了した「大学教育再生加速プログラム事業」は、今年度、日本学術振興会同プログラム委員会で実施された事後評価で、S評価をいただきました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年でしたが、本事業での取組みは途絶えさせることなく、一層の向上に努めました。

年度当初には、感染症に対する学内の方針および行動指針を策定し、遠隔授業のためのシステム整備や活用方法の共有を進めるとともに、アカデミック・アドバイザーや研究指導教員が、学生の健康管理等を支援しました。5月から開始した遠隔授業では、いかに教育の質が保証できるか検討を重ねつつ、サポート窓口を設置して学生からの意見・要望などを取り入れ、改善に繋げていきました。

臨地実習も学内実習に切り替え、対象の特性にあわせて看護技術を実践する力を身に付けられるよう、事例を用いたロールプレイや、シミュレーター、VR等を活用するほか、臨床の指導者からオンラインカンファレンスで指導を受ける機会を設けるなど教育の質の向上に努めました。

コロナ禍での取組みが、質向上に繋がるよう、今後も更なる発展を考えています。



シミュレーターを活用した学内実習の様子

～学園大学間の連携推進～

日本赤十字学園は、平成21年度から令和2年度までの12年間に3つの中期計画を策定しました。

第一次中期計画(平成21年度～25年度)では、各大学の四大化が完了し、すべての大学に大学院修士課程が設置されるなど大学教育の基盤が構築されました。

第二次中期計画(平成26年度～30年度)においては、各大学の教学機能、事務機能の向上により、内実の伴った大学組織を構築するとともに、質の高い教育、研究活動に不可欠な安定的な経営基盤の確立を目指し、5つのビジョン(目指すべき大学のイメージ)を掲げ、事業取組の指針として各事業に取り組みました。

第三次中期計画(令和元年度～5年度)は、計画策定に際して、近年の文部科学省の教育行政施策の動向及び公益財団法人大学基準協会が示す大学評価の項目等を視野に入れつつ、学園各大学の教育環境の維持・向上に資することとして、内部質保証体制の確立を明記しました。さらに、情報通信技術(ICT)を活用した教育の提供、就学意欲のある社会人に対する教育環境の確保のための取組み、年々指導が強化される収容定員の管理等の重要性が高まっていることから、これらの事項を念頭に置きつつ、次の6項目を目標に掲げ、事業への取組みの指針とします。

[日本赤十字学園第三次中期計画ビジョン]

- 1 質の高い教育を実践する大学
- 2 情報通信技術(ICT)を活用した教育を実践する大学
- 3 学園大学間の連携を活かした大学運営
- 4 地域社会との連携及び社会貢献へ積極的に取り組む大学
- 5 健全な経営基盤に立つ成長する大学
- 6 さいたま看護学部の開設及び安定運営

1 新型コロナウイルス感染症への対応について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当学園の各大学においても未曾有の事態となりました。入学式やオリエンテーションも、中止又は一部縮小により開催する形で新たな年度のスタートを切りました。

年度明け早々から全国に展開された緊急事態宣言下においては、遠隔授業による対応を余儀なくされたものの、各大学ともにそれぞれの地域の状況に応じて学修環境を整備し、取り組んでまいりました。

対面授業再開にあたっては、講堂等の使用や2つの教室を情報機器で接続するなどソーシャルディスタンスを確保するとともに、定期的な換気や消毒等の徹底により、学生だけでなく教職員にとっても万全の感染対策を実施いたしました。

また、病院等で実施する臨地実習では、受け入れ先の施設の状況により日程や内容の変更が必要となり、さらには学内実習へと切り替えざるを得ない状況ともなりましたが、現場の看護師の方々の協力も得ることにより、臨地実習に近い状況で実習経験を行うことができ、実習先との教育の連携をより深める機会にもなりました。

～遠隔授業の1コマ～



学内教員による遠隔授業の様子

～学内実習の様子～



患者説明



血圧測定

乳幼児の計測

2 入学者数等の状況

令和2年度の入学者数は、新設の日本赤十字看護大学さいたま看護学部の89人を含めて学園全体で学部821人、短期大学13人、大学院では修士課程69人、博士課程14人となりました。また、卒業者数については、学部746人、短期大学20人、大学院修士課程75人、博士課程3人となりました。

なお、令和2年度の入学式については、新型コロナウイルス感染症の影響により6大学中1大学が規模を縮小して開催、5大学は開催を中止しましたが、学位授与式については、全6大学において、感染対策等を徹底したうえで、規模を縮小して開催しました。

日本赤十字北海道看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0157-66-3311 住所 北海道北見市曙町664-1



学長

河口 てる子

令和2年のコロナ禍では、2月に本学所在地の北見市から北海道内初のクラスターが発生したこともあり、緊急事態宣言が始まる前からステイホームの要請で卒業式・入学式を挙げて、遠隔授業を行いました。遠隔授業では、平成28年から赤十字5大学で共同看護学専攻博士課程の遠隔授業を実施していたのが功を奏し、加えて情報システム関係の教職員の活躍により、学部の遠隔授業や3密を避けた1学年2教室を遠隔機器で繋いだ対面授業を円滑に進めることができました。実習についても、多くの看護系大学が病院実習を実施できなかったところ、本学では介護施設実習など一部を除き、赤十字病院のご協力のもと、ほとんどの臨地実習が行えたことは、感謝の念に堪えません。また、旭川市で感染者クラスターが出た時は、片道3時間かかる距離ですが、保健所の積極的疫学調査に教員を派遣し、毎日3～4名の本学教員が宿泊しながら深夜まで電話を取り続けました。研修会や出前講義、学部の大学祭や部活動など多くの活動が中止となる中で、地域の健康・医療に資するhumanityにつながる活動ができたことは幸いです。

感染予防に対応した教室等対策

4月からの対面授業形式の講義開始にあたっては、濃厚接触にならないよう、複数の教室に分散するなど、収容力の大きい体育館も利用しました。講義にあたっては、ビデオカメラ、大型スクリーン、補助TVモニター等の映像機器を活用するとともに、授業内容や授業形態を工夫し、あわせて、換気・消毒方法等感染防止策を徹底し対応しました。食堂は対面しない様に座席を間引きし、食事場所も学年毎に限定し、3密の回避や手指消毒などに留意して開始しました。



体育館での講義風景

遠隔授業の開始

政府による緊急事態宣言の延長に備えて、4月末より、遠隔授業実施にあたっての通信環境調査を学生に行い、教職員には、動画配信サイトと大学ポータルサイトによる質疑応答を併用した、双方向での講義が開始できるよう、説明会を実施し準備をすすめました。緊急事態宣言が5月31日まで延長されたことから、学生に対しては予告していたとおり、遠隔授業(自宅学習対応)を開始しました。実施後の調査では、大多数の学生は、問題なくスタートできましたが、授業資料の配付については改善の声が上がり課題を残しました。



教員へのレクチャー

学生への支援金給付の取組み

全国の大学では、遠隔授業に必要な通信環境の整備に充ててもらったための支援金として、5万円から10万円程度を支給する風潮にあり、学生への経済的支援が注目を浴びるようになりました。本学においても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、アルバイトなどの収入源が断たれ、生活に困窮し支援を必要としている学生のために、「給付型支援金」として、給付することを決定しました。学生給付支援金の財源としては、北見市、並びに後援会からの支援金を含め、学生1人あたりに3万円を給付することができました。



学生への支援の様子

オープンキャンパスの開催

例年2回(7・9月)実施しているオープンキャンパスは、全国的なコロナ禍の中、9月13日の1回に留まり、7月から9月までは、LINEでの個別相談会を開催するなど、ホームページにはWEBオープンキャンパス特設サイトの掲載を行いました。9月のオープンキャンパスは、感染対策のため定員制限(100名)や午前・午後の2部制とし、感染対策を十分行い開催しました。学生、保護者の方からは、コロナ禍であっても、「実施頂けてありがたい」との声を多く頂きました。



生徒への個別説明の様子



久保弘志 小清水町長と河口学長

地域との連携

10月1日小清水町と「包括連携協定」を締結しました。地域コミュニティの活性化、まちづくり、健康・福祉の向上、人材育成、災害教育・対策など様々な分野で相互に協力を行います。

本年度は、コロナ禍でありましたが、地域自治体との協働の下に、高齢者の健康作り支援や地域活性化支援を積極的にを行い、地域の課題解決に携わって参りました。

また次年度については、子ども達の健康作りについても関わっていく予定です。

赤十字特別推薦選抜

赤十字特別推薦選抜については、本年度より開始されました。北海道支部や道内10病院のご協力を得て、応募者数17名の中から10名の受験者を確保する事ができました。制度の導入にあたっては、本学入試委員長、事務局長が北海道支部・病院に対して制度説明を行い、病院長をはじめとする事務担当者や支部担当者の皆様には、多大なご支援とご理解を頂き、さい先の良いスタートを切ることができました。

成人式と感染予防

新型コロナウイルス感染防止対策本部会議では、感染予防の観点から、正月明けの授業開始日にあたり学生へは、厳しいルールを周知しました。その結果、地元以外の学生が成人式に出席できなくなるため、2年生より遠隔授業での対応を懇願する要望書(2年生全体の9割以上の署名)が大学に寄せられました。大学としては、できることなら出席させてあげたいと考え、成人式への出席と感染予防対策の両立が図られるよう残りの授業科目、内容など、様々な角度から検討を重ね、新しくTeamsを用いた遠隔授業を実施することとしました。なお、学生に対しては遠隔授業に関する事前説明会への参加を必須とする対応を行いました。



学生への説明会の様子

学位記授与式

学位記授与式を3月10日に講堂で挙行了しました。新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴い、感染リスクを回避するため、卒業生および教職員のみでの参加とし、保護者には別室モニターでの視聴やマスク着用の励行にご協力いただき、執り行いました。また、例年ですと、学長より、卒業生1人ひとりに卒業証書が手渡されますが、本年については、代表者に手渡し、時間を短縮して実施しました。昨年度は中止した背景もあり、卒業生からは、「本当に感謝しています」との言葉を数多くいただきました。



卒業生代表のことは

日本赤十字秋田看護大学 日本赤十字秋田短期大学



設置学部等 (大学)看護学部/大学院 (短期大学)介護福祉学科

電話 018-829-4000 住所 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3



学長
安藤 広子

本学は、日本赤十字社秋田県支部救護看護婦養成から120余年の歴史をもち、現在は看護大学看護学部、看護学研究科と短期大学介護福祉学科が併設しており、連動した形で運営をしております。平成8年の短期大学開学当初から勤務をしている2名の教員に、文部科学大臣より短期大学教育功労賞が交付されました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、遠隔授業と対面授業の実施と、シラバスの修正や遠隔授業の操作について教員と学生の学習など多くの困難を伴いましたが、それと同時に共同作業の在り方など多くの学びもありました。そして、令和3年4月からは全教職員がタブレットを持ち、業務を遂行いたします。さらに、昨年度の組織再編成の検討時から、PDCAサイクルの実施に力を入れてきた結果、教学マネジメント指針や委員会規程が整備され、私立大学改革総合支援事業に係る調査のタイプ1では、看護学部で70点と支援補助の対象得点を超えました。また、地域住民の健康増進と人材育成に寄与することを目的とし、2つの社会福祉法人と包括的な連携協力に関する協定を締結しました。

オープンキャンパス

看護学部のオープンキャンパスは、夏はWEB形式でのオンライン相談会や、模擬講義、ドクターヘリパイロット・フライトナースインタビューなどの動画をYouTubeで公開しました。秋と春は事前申込定員制を設けての対面形式とし、模擬講義や実技見学、キャンパスツアーなど本学の魅力を伝えるイベントとなりました。

介護福祉学科は、3回とも事前申込定員制の対面形式で開催し、看護学部の対面形式同様、十分に本学を知っていただく機会となりました。



秋のオープンキャンパス

救護看護婦像の慰霊清掃



救護看護婦像の慰霊清掃

日本赤十字社看護師同方会秋田県支部会員の皆さまが、赤十字救護看護婦像と殉職救護員遺影を清掃され、その御霊を慰められました。救護看護婦の皆さまの「二度と戦争を繰り返してはいけない」という思いを受け止め、平和や命の尊さ、赤十字の理念を改めて深く胸に刻んだ一日でした。

学校見学・進学相談会

夏と冬の学校見学・進学相談会を本学を会場に開催しました。感染予防措置を行い、事前申し込みによる定員制とし、教職員が個別相談、学校見学、奨学金の説明を実施しました。



夏の学校見学・進学相談会

データサイエンスFD研修会

秋田県立大学の木村寛先生をお迎えして、FD研修会「統計学の基本」を開催しました。政府が策定した「AI戦略2019」では、各大学で初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得させることを求めています。本学では、数理・データサイエンス・AIと社会とのつながりについて教えることができる教員の養成をめざし、「数理・データサイエンスFD」をシリーズ化して実施します。

データサイエンスFD研修会



特別シンポジウム 「地域包括ケアにおける現状と課題」

看護学部、介護福祉学科の各2年生を対象に特別シンポジウムを開催しました。本学の卒業生を含め、地域包括ケアに携わっている、医療・福祉の各分野の専門職の方から、現状と課題について紹介頂き、今後学生自身が専門職となるにあたり必要な能力、および自己課題について気づく機会となりました。



特別シンポジウム「地域包括ケアにおける現状と課題」

看護学部の合同就職説明会

合同就職説明会には各地の病院の看護部長や担当職員が、看護師として活躍している本学卒業生と一緒に参加いただきました。今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、秋田県内の施設に限定しての実施となりましたが、学生たちが説明に熱心に聞き入り、様々な質問をする様子からも、将来の看護師としての自分自身のキャリアに対する関心と意識の高さがうかがえました。



看護学部の合同就職説明会



短期大学教育功労者表彰

短期大学教育功労者表彰

文部科学省では、令和2年が短期大学教育制度の創設から70周年を迎えることを記念して、短期大学教育に長く従事し、その功労が顕著な者及び短期大学教育に特に功績があった者を表彰し、その功に報いるとともに、短期大学教育の発展に資することを目的として、短期大学教育功労者表彰を行いました。本学では、介護福祉学科の高橋美岐子教授、土室修教授の2名を功労者として推薦し、表彰状が交付されました。

日赤短大 おとなの学校見学

主に社会人の皆さまを対象に、介護福祉士や本学の教育についてより良く知っていただくため、「おとなの学校見学」を開催しました。教職員との個別相談やキャンパスツアーなどを実施して、授業の内容や資格の取得、学校生活や入学試験など、本学についての理解を深めていただく良い機会になりました。また、当日はABS秋田放送のラジオ番組の取材もあり、イベントの内容や本学の特色を丁寧に、分かりやすく紹介いただきました。

日本赤十字看護大学

設置学部等 看護学部／さいたま看護学部／大学院



広尾キャンパス



大宮キャンパス

(広尾キャンパス) 電話 03-3409-0875 住所 東京都渋谷区広尾4-1-3

(大宮キャンパス) 電話 048-799-2747 住所 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19



学長

守田 美奈子

本学では新型コロナウイルス感染症による危機対策本部を立ち上げ、学生や教職員の健康を守り、教育の質を維持することを目標に感染対策の徹底と遠隔授業を中心とした教育、研究に取り組みました。首都圏の感染状況により、遠隔授業の比率が高めになりましたが教職員と学生の協力のおかげで、相応の学修成果が得られました。またさいたま看護学部が開学し、大学全体で一人の学生も取りこぼさない方針のもと、教職員が一丸となり、経済支援、心理支援、学習支援等の支援体制を整え実施しました。

海外研修や地域での活動、研究にて制約がありましたが、Zoomを用いてラ・ソース大学との交流や各種研修会も実現できました。また、ITの活用により教育・研究の新たな可能性が広がることが実感できた1年でもありました。大学全体の管理運営体制の再編、大学院体制の検討等、今後の発展にむけての基盤作りを引き続き行っております。

感染症拡大は今後も続くと思われませんが、赤十字の理念のもと看護職者を育成する使命を再認識し本学の教育力、研究力をさらに向上させるべく尽力してまいります。

入学式ミニセレモニーに笑顔

入学式中止で始まった令和2年度の学生生活。4月7日に7都府県に緊急事態宣言が発出され、学生にとっては新入生



リモートによる学長挨拶(大宮キャンパス)

同士の交流もできず、自宅で1人遠隔授業に向き合う状況が続きました。感染状況が落ち着いてきた頃を見計らい、さいたま看護学部(大宮)では8月20日と24日に、看護学部(広尾)では9月17日に、入学式ミニセレモニーを開催しました。各キャンパスが、学生たちの笑顔に満ち溢れた1日となりました。



入学式ミニセレモニー(広尾キャンパス)

学生たちへの就学支援(奨学金)

今年度から、本学は「高等教育無償化(授業料減免と入学金免除と日本学生支援機構給付奨学金)」の対象大学となり、学生が活用できるように支援しました。またコロナ禍における対応として「学生支援緊急給付金給付事業(学びの継続のための学生支援)」「日本学生支援機構新型コロナウイルス感染症対策助成金」の活用を呼び掛けました。さらに、本学独自の給付型奨学金の予算枠を増やして、多くの学生が活用できるようにしました。

遠隔での演習・実習

コロナ禍で、ほとんどの看護学実習は遠隔実習と学内実習となりました。今年度から導入した学習支援システムを活用し、教員が患者役を演じたり、模擬患者を依頼したりしながら、ロールプレイやシミュレーションを展開し、臨場感のある学びができるように工夫しました。学生からは「ロールプレイ等を通して、本物の患者さんがそこにいるように感じた」、「グループでの学びで自分の強みと弱みを気づくことができた」などの感想が上がりました。

コロナ禍の文化祭・キャロリング：学生たちの創意・工夫

文化祭は、広尾キャンパス・大宮キャンパスの学生が協働し、創意工夫しながらWEBでの開催としました。

合唱ができない状況下でのキャロリングは、学生たちが作成した「クリスマスカードと飾り」や「クリスマス動画」を届けるなど、感染リスクに配慮して創意工夫を凝らしました。

各施設から届いたお礼状には、病院・施設の利用者や子どもたちが喜んでくださったのみならず、働いている職員も癒されたことが記されていました。



文化祭(クロアルージュ祭)プログラム



キャロリングで作成したクリスマスの飾りやカード

オンラインでの継続教育セミナーの開催

地域連携フロンティアセンターが主催し、看護師を対象とするセミナーをオンラインで開講しました。11月7日のフロンティアセミナー「チャレンジ看護研究! Part2: 私でもできる量的研究」には70名が受講しました。

また、認定看護師のためのスキルアップセミナーは、令和元年度開催予定であったプログラムを10月10日に開催し122名が参加、今年度プログラムを2月27日に開催し165名が参加しました。

図書館のリモートサービス強化

看護学部の大宮館、さいたま看護学部の大宮館の連携体制を構築しました。両館共に、新型コロナウイルス感染症対策による遠隔授業や大学入講制限に伴う、①学外から閲覧および入手できる資料の拡充、②文献を自宅へ転送するサービス、③貸出図書を自宅へ郵送するサービスといったリモートサービスを開始しました。また、図書館内のグループ学習室を遠隔授業や遠隔実習を受けることができる場所として大学院生へ提供し、学習環境を整備しました。

コロナ禍での国際交流

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大状況により、海外渡航等が制限されたことから、モナシュ大学語学研修、スイス・スウェーデンの各大学との交換留学が中止となりました。その一方で、国際交流の新たな形として、小児科のNurse PractitionerであるKelly Pretorius氏 (The University of Texas at Austin School of Nursing, PhD, MPH, MSN, PNP-AC/PC, RN) を迎え、3月12日に国際交流センター主催の講演会「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が米国のNurse Practitionersに与えた影響」をオンラインで開催しました。また、MOUを結んでいるスイスのラ・ソース大学とは、3月24日に両大学の学生・教員によるオンライン交流会を行い、本学からは、3年生2名、4年生2名が発表を行いました。

感染対策をしながらの学びの機会の確保



大学入り口での感染対策
(サーマルカメラでの検温のうえ、入構届を提出)

コロナ禍において、各学生が自らの健康管理ができるように健康管理チェック表を活用したり、大学内の全部署にはアルコール消毒剤を設置する等、感染対策を行いながら学内での学びの機会を確保できるよう取り組みました。

広尾キャンパスでは健康相談専用のメールアドレスを設置し、大学入り口には自動体温測定器を設置しました。大宮キャンパスでは、感染拡大防止ハンドブックを作成し、教職員や学生へ配布し学部全体で取り組む体制を整えました。

日本赤十字豊田看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0565-36-5111 住所 愛知県豊田市白山町七曲12-33



学長

鎌倉 やよい

本学は、人道を基盤とした赤十字の思想を涵養する理念のもと、看護学基礎教育、大学院では高度な看護実践能力並びに研究・教育能力を育成する教育を提供してきました。今年度は、教学マネジメントとして、本学の理念・目的・目標と3つのポリシーとの連関を確認いたしました。

令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大に明け、卒業式・入学式の中止を決定いたしました。3月には新型コロナウイルス感染予防対策本部を設置し、基本方針として「新型コロナウイルス感染拡大を予防して、学生・教職員及び地域の安全を守る。」を掲げ、学生への感染予防行動の指導、学内の感染予防対策、イラストによる感染対策の啓発を実施しました。また、教育の質を保証することを言明し、遠隔授業の実施、臨地実習期間の短縮・再配置、学内実習への切り替えなど対応することができました。

本学は年度計画を日本赤十字学園第三次中期計画(令和元年度～令和5年度)のもとに立案し、これに基づく施策を実施しました。研究の遂行に感染拡大の影響を受けましたが、他の目標は概ね達成されました。

ICTを用いた遠隔授業

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、5月11日より授業を遠隔授業へ切り替えました。令和2年度から新教育課程も開始され、教員も学生も戸惑いのなかでの遠隔授業の開始となりましたが、課題を随時解決しながら順調に運営が進みました。後期には、大学でタブレット端末を70台購入し、学生への貸出しを行い、学内にWi-Fiを整備しました。来年度も遠隔授業、対面式授業それぞれの利点を活かし、一部の授業では遠隔での授業を行っていく予定です。



遠隔授業の様子

学内実習

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、臨地実習を行えない科目がありました。そのため1年生の「基礎看護学実習1」は学内実習に切り替えての実施となり、教職員を患者役として血圧測定を行いました。1年生は緊張した様子でしたが実施後はアドバイスをもらい、基礎看護技術の向上を図りました。



学内実習

私立大学等改革総合支援事業の推進

大学間、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進を支援する「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」(タイプ3)に申請し、4年連続で採択されました。本学はこれからも地域の発展に寄与する活動を推進していきます。

新サテライトキャンパス開設

本学のサテライトキャンパスが移転しました。新キャンパスは名古屋第二赤十字病院の日赤愛知災害管理センター地下1階となります。

在学する大学院生の多くは、就業しながら通学しているため、地下鉄「八事日赤」駅と直結している新キャンパスは交通の利便性が高く、一層の学習効果が期待できます。

また、近年多発する自然災害に対し、本学は日赤愛知災害管理センター内において、日本赤十字社と協働して被災者への生活支援を中心とした支援活動を計画しています。



サテライトキャンパス

国際交流

本学では平成29年度より国際交流の一環としてタイ赤十字看護大学(STIN:Srisavarindhira Thai Red Cross Institute of Nursing)とMOUを締結し、学生の受け入れを行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により遠隔で実施しました。本学からは4年生3名、1年生8名が参加しました。事前に用意したパワーポイント資料を使ってコロナ禍での生活の変化、自粛期間の過ごし方を英語で紹介しました。来年こそは対面で交流できることを願い、引き続き交流を継続することを確認しました。



タイ赤十字看護大学とのオンライン交流



つばめ教室

地域との連携

12月22日に尾張旭市で「つばめ教室」を実施しました。

この事業は、平成28年度から尾張旭市から本学が委託を受けて、地域高齢者の摂食嚥下機能を維持し、摂食嚥下障害を予防することを目的として実施しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、摂食・嚥下障害看護認定看護師によるスクリーニングテストを中止し、講義を中心に行いました。

室内の換気を行い、参加者間の距離をとったうえで、感染予防、摂食嚥下機能の維持についての講義を受け、その後参加者全員で「つばめ体操」を行いました。

教職員の資質向上

9月1日に愛知県内にキャンパスを有する大学等の教職員を対象とした(本学教職員も含む)FD・SD研修会「日本赤十字豊田看護大学における新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた教育的取り組み」を開催しました。

この研修会は豊田市高等教育活性化推進プラットフォーム事業の一環であり、豊田市と大学間の連携を強化し、豊田市の高等教育を活性化することを目的としています。

本学教員による新型コロナウイルス感染症の基礎知識や、感染拡大防止のための本学の取組みについて講演を行い、その後指先を意識した手指消毒の仕方や手袋、エプロンのはずし方などの演習も行いました。

この研修会は、本学教職員、直接本学に来校しての参加のほか、Zoomによる配信も行いました。103名の方が参加し、そのうち約半数がZoomでのライブ配信による参加でした。



FD・SD研修会

日本赤十字広島看護大学

設置学部等 看護学部／大学院

電話 0829-20-2800 住所 広島県廿日市市阿品台東1-2



学長
田村 由美

本学は開学20周年という記念すべき年でした。ところが、4月の学長着任早々、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言下での入学式の縮小開催に始まり、休講に伴う遠隔授業への対応や、対面授業開始後のサテライト教室による分散型授業、臨地実習施設の受け入れ休止に伴う学内実習への切り替えなど、学生・教職員一丸で感染防止に努めながら様々な対応が求められる未曾有の1年となりました。

また、地域に対しては、平時同様の委員会や会議に加え、新型コロナウイルス感染症対応医療機関等への支援として、県が設置した軽症者宿泊施設における健康管理業務へ教員を派遣しました。

このような中、本学としては幸いにも感染者を出すことなく学位授与式を迎えることができ、学部生138名、修士課程7名、博士課程では初となる1名を送り出すことができました。

今後も終息まで新型コロナウイルス感染症と辛抱強く向き合いつつ、より一層、ヒューマンケアリングに基づく看護を実践できる人材の育成を目指してまいります。

目標に基づいた学内実習の工夫

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの実習施設の受け入れ縮小や中止により学内での実習を余儀なくされました。そのため、より多くの学生が病院実習を経験できるよう、2週間の実習を学内1週、病院1週に分ける等の日程の変更や、学内実習においても、病院実習と同様の事例の受け持ちや、複数患者、多重課題対応を学生がチームで対応するように展開しました。

また、学生が実習目標に基づき臨地実習に近い状況での学内実習を行えるよう、実習施設の協力を得て遠隔方式などの以下の新しい工夫を取り入れました。

- ・学内実習のカンファレンスで遠隔での参加を依頼し、学生発表に対する質疑応答や助言をいただく。
- ・病院全体のオリエンテーションや組織の医療安全体制の動画を作成を依頼し、学内実習に取り入れる。
- ・学生と実習対象者が遠隔でコミュニケーションを図る機会を設け、現実的な視点からの学びに繋げる。



マスク、フェイスガード、アルコール製剤を用いた学内実習



概要を説明する田村学長

外部有識者会議の開催

本学が、学校運営の改善や教育活動の質向上を恒常的に進めていくために、地域や産業界等の学外の有識者をお招きし、客観的な視点からのご意見を伺う会議を設置し、その第1回会議を10月30日に開催しました。

会議において寄せられたご意見は今後の本学の取組みの参考として活用するとともに、今後も毎年度、定期開催して、状況変化等を報告するとともに、様々なご意見をお聞きしていく予定です。

履修証明プログラム

令和2年度より、看護職を対象とした研究能力のある人材養成を目的とした研究方法のカリキュラム「看護研究プログラム」を履修証明プログラムとして開講し、2名の履修者に学校教育法第105条に基づく履修証明書が交付されました。本プログラムで単位認定された科目は既修得単位として、本学大学院に入学した際には履修免除となります。



宿泊療養施設の様子

広島県新型コロナウイルス感染症軽症者等宿泊療養施設への教員派遣

広島県が11月からの新型コロナウイルス感染症患者急増に伴い、軽症者等宿泊療養施設を複数立ち上げたため、本学は、この状況を災害レベルの対応と判断し、教員の有志6名が12月末から2月末まで延べ22日間、日勤・宿泊勤務に従事しました。業務内容は、電話訪問による健康状態の把握、相談支援、こころのケアなどであり、体調急変時には、防護服を装着し、直接ケアに従事しました。参加した教員は、看護専門職として貴重な体験をすることができました。

遠隔による国際交流

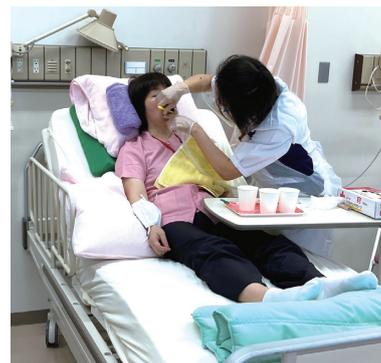
新型コロナウイルス感染症の影響によりラ・ソース大学(スイス)への派遣及び受け入れが2年続けて中止となったため、交流派遣の代替案として、本学から、Flipgridアプリを利用した動画による交流を提案し、本学学生が作成した大学や地域及び文化を紹介する動画を提供しました。ラ・ソース大学の学生も動画の作成を進めました。また、フィリピン大学に対しても、同様の方法による交流について提案を行いました。



スイスの大学生へ「お弁当」を紹介

認定看護師教育課程(摂食・嚥下障害看護)

摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程では、コロナ禍においても感染対策を心掛け、臨地実習を含めたすべてのカリキュラムを修得した令和2年度履修生15名が課程を修了し、平成21年度の開講以来294名の修了生を輩出いたしました。



実習の様子

また、今年度は認定看護師認定更新審査を受審し、日本看護協会より1月28日付で「認定看護師教育機関認定証」の交付を受けました。

フローレンス・ナイチンゲール生誕200年を記念して

今年度はフローレンス・ナイチンゲール生誕200年ということから、大学祭の一環として「ナイチンゲールが生きていたら、COVID-19にどう立ち向かったか」というタイトルで、グループワークによるポスター作成やナイチンゲールに関するクイズ大会を行いました。看護学生として様々な視点から考え、アイデアを出し合ったポスターはどれも素晴らしい作品となりました。また、クイズは全て英語で行われ、オンラインフォームを使用して解答するなど、ソーシャルディスタンスを保ちながら、安全かつ楽しく実施しました。大学祭の最終日には、ポスターの優秀作品やクイズの正解者に、ナイチンゲールや看護に関する賞品が贈呈されました。記念すべきこの年にこれまでの看護の歴史を振り返り、これからの看護を考える良い機会となりました。



ナイチンゲールに関するクイズ大会の様子



学長特別賞のポスター

コロナ禍での図書館の対応

図書館では例年、トワイライト講習会とブックケアプロジェクト(ブックハンティング)を実施していますが、コロナ禍でいずれも中断・規模縮小せざるを得ませんでした。それでも、

- ・看護学生・教員がよく利用するデータベース「医中誌Web」の学外アクセスを可能とし、学習、教育・研究を支援する環境を整備
- ・授業や実習内容の変更に伴い、必要な視聴覚資料(DVD)を早急に準備

の2点を行い、図書館機能を最大限活用できるよう努めました。

日本赤十字九州国際看護大学



設置学部等 看護学部／大学院

電話 0940-35-7001 住所 福岡県宗像市アスティ1-1



学長
小松 浩子

本学は、赤十字の「人道」の理念を基盤とし、「ひとりを見る目、その目を世界へ」をめざした教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症という世界的危機にある中、学生、教職員一丸となり、人の命と尊厳を守るための看護への学びを深める一年を過ごしました。ICTや多様な教育方法の活用、赤十字病院をはじめとする組織・機関との連携・協力を頂くことにより、教育の質向上に取り組まれました。1つの成果として「大学教育再生加速プログラム事業」の事後評価で最高のSを頂くことができました。また多くの制約がある環境下、コロナ禍で入学した新入生に対し、先輩達が孤立しないようつながりの輪を作る自主的な活動を推進するなど、学生の逞しい姿をみることができました。

今後、社会の変化に対応した教育を促進するとともに地域とともにある大学として尽力してまいります。

学生有志団体「ビスケット」による1年生支援活動

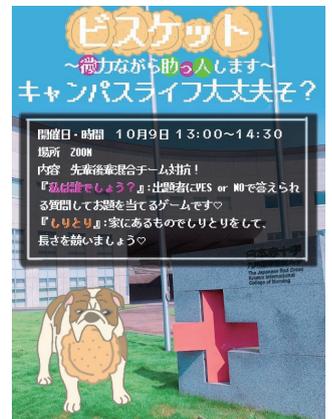
入学後から登校できない日が続いていた1年生のために、上級生たちが有志で1年生をサポートする団体「ビスケット」を発足させました。ビスケットという名前には、「コロナ禍で不安いっぱいの新入生を微(ビ)力ながら助っ人(スケツト)します」という意味が込められており、同級生や先輩たちとの繋がりを強くするという目標のもと、大学紹介VTRやオンラインレクリエーションの企画・運営、後期には対面でのハロウィンパーティーなどの活動を実施しました。



学内紹介VTR



ハロウィンパーティーにて集合写真



1年生に向けてオンラインイベントの案内

学生支援給付金を給付

コロナ禍で始まった遠隔授業実施のため学生に対しネットワーク環境等の整備などの協力をお願いする部分もありました。一方で、経済的影響を受ける家庭も少なくない状況であり、学生の学修の継続と看護職者になるという夢の実現のため、経済的支援も重要でした。そこで、国からの特別定額給付金などを活用することに加えて、本学独自の支援策として、「学生支援給付金」として学生一人あたり前期・後期それぞれ1万円ずつを給付しました。また、広く新型コロナウイルス感染症対策学生支援募金も募集し、卒業生など多くの方からご支援をいただきました。

本学同窓会「遥碧会」からも
寄付をいただきました



学校医による「新型コロナウイルス感染症に関する特別講義」を実施

7月末頃からの全国での感染第2波を受け、さらに学生たちに不安が募る状況が予測されました。そこで、学生に感染症に対する正しい知識を身に付け行動につなげてもらうことを目的とした特別講義を実施しました。学校医が講義を行い、新型コロナウイルス感染症に関する基礎的な知識と日常生活、実習先や学内での予防行動を中心に、感染症の流行期に心の健康を保つためにどのように生活すれば良いかなど、心療内科が専門の先生ならではの話もしていただきました。

地域連携 「第2回ポップアップキャンパスinむなかた」を開催



トークセッションの様子

本学も参画しているむなかた大学のまち協議会が主催して、宗像市に所在する2大学、2高校、地域住民の連携で「SDGsにチャレンジ」をテーマに、各学校、地域の活動紹介から始まり、連携アイデアを

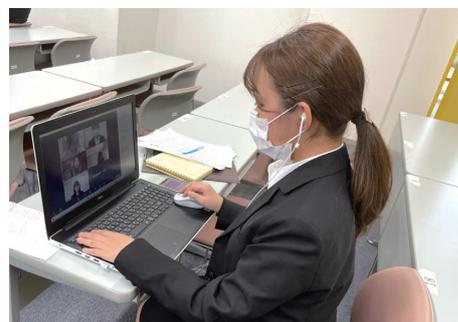
トークセッションにて考えるイベントを開催しました。本学からは4年生2名が参加し、合同防災訓練など赤十字の看護学生ならではのアイデアを提案していました。今後、アイデアは、実現化にむけ宗像市長らに提案することとなっています。



参加者による集合写真

第20回国際シンポジウム

学生主体の国際シンポジウム実行委員会が、年度当初から企画・運営をしてきた国際シンポジウムが2月25日に開催されました。このシンポジウムは年1回学生が企画して行うイベントであり、今回のテーマは「日本の性教育の現状と問題点～性教育に向けて、いま私たちにできること～」でした。初めてのオンラインによる開催でしたが、50名以上の参加者が活発に意見を交わし、自分に何ができるかを一人ひとりが考える機会となりました。



国際シンポジウムの様子

地域連携・教育センターを設置

社会連携と社会貢献のさらなる発展を目指し、これまで設置していた地域の方々との交流や社会貢献を目的とする「地域連携室」と周辺病院の医療従事者や卒業生を対象とした継続教育を行う「看護継続教育センター」の2つを統合した『地域連携・教育センター』を設置しました。

今年度は、近隣の総合スポーツ宿泊施設が宗像市からの委託を受けて行った、「コロナ禍におけるスポーツ観光調査研究」に対し、アドバイスをを行いました。

オンラインオープンキャンパス



大学概要説明

今年度オープンキャンパスは、初めてのオンラインにより開催しました。また、高校1年生からでも参加できるよう、年に4回と開催回数を増やし、本学を知ってもらう機会としています。

内容は大学概要説明や入試・奨学金説明に始まり、教員による「個別相談会」や学生による「在学生との交流会」も実施しました。参加者からは、一人暮らしや学生生活についてなど活発に質問があり、和気あいあいとした雰囲気での交流が行われました。



オンラインによる個別相談の様子

学生の動向

1 入学者の状況 (令和2年5月1日現在)

令和2年度の学部入学人数は、新設の日本赤十字看護大学さいたま看護学部の89人を含めた6大学7学部で合わせて821人でした。また、大学院は修士課程69人及び博士課程14人、短期大学は13人がそれぞれ入学しました。

(単位:人)

学校名	看護学部			大学院看護学研究科				
	入学定員	志願者	入学者	課程	専攻	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 北海道看護大学	100	300	107	修士	看護学	16	5	3
				博士	共同看護学 ※1	2	4	2
日本赤十字 秋田看護大学	100	388	112	修士	看護学	12	9	5
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
日本赤十字看護大学	130	1,239	143	修士	看護学	30	50	27
					国際保健助産学	15	23	14
				博士	看護学 ※1	8	17	8
					共同災害看護学 ※2	2	0	0
さいたま 看護学部	80	638	89					
日本赤十字 豊田看護大学	120	524	129	修士	看護学	10	5	4
				博士	共同看護学 ※1	2	0	0
日本赤十字 広島看護大学	125	547	138	修士	看護学	10	8	6
				博士	共同看護学 ※1	2	1	1
日本赤十字 九州国際看護大学	100	448	103	修士	看護学	10	12	10
				博士	共同看護学 ※1	2	2	2
合計	755	4,084	821	修士	看護学	88	89	55
					国際保健助産学	15	23	14
					合計	103	112	69
				博士	共同看護学 ※1	10	8	6
					看護学 ※1	8	17	8
					共同災害看護学 ※2	2	0	0
					合計	20	25	14
(参考) 3年次編入 日本赤十字看護大学看護学部								
	10	17	10					

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学校名	介護福祉学科		
	入学定員	志願者	入学者
日本赤十字 秋田短期大学	30	14	13

2 在学生の状況 (令和2年5月1日現在)

令和2年度の在学生数については、学部学生は6大学7学部で合わせて3,126人、大学院生は修士課程190人及び博士課程100人でした。また、短期大学では34人が在学していました。

(単位:人)

学 校 名	看護学部		大学院看護学研究科			
	収容定員	在学生	課程	専 攻	収容定員	在学生
日本赤十字 北海道看護大学	400	441	修士	看護学	32	16
			博士	共同看護学 ※1	6	12
日本赤十字 秋田看護大学	400	434	修士	看護学	24	16
			博士	共同看護学 ※1	6	7
日本赤十字看護大学			修士	看護学	60	67
看護学部	540	596		国際保健助産学	30	30
さいたま 看護学部	80	89	博士	看護学	24	44
				共同災害看護学 ※2	10	9
日本赤十字 豊田看護大学	480	530	修士	看護学	20	19
			博士	共同看護学 ※1	6	9
日本赤十字 広島看護大学	500	578	修士	看護学	20	21
			博士	共同看護学 ※1	6	10
日本赤十字 九州国際看護大学	400	458	修士	看護学	20	21
			博士	共同看護学 ※1	6	9
合 計	2,800	3,126	修士	看護学	176	160
				国際保健助産学	30	30
				合 計	206	190
			博士	共同看護学 ※1	30	47
				看護学	24	44
				共同災害看護学 ※2	10	9
				合 計	64	100

博士課程のうち、※1は博士後期課程、※2は5年一貫制博士課程

(単位:人)

学 校 名	介護福祉学科	
	収容定員	在学生
日本赤十字 秋田短期大学	60	34

3 卒業生の進路状況 (令和2年度卒業生の実績)

令和2年度の学部の卒業生は746人であり、そのうち433人(58.0%)が赤十字病院に就職しました。また、修士課程の修了者75人のうち23人(30.7%)及び博士課程の修了者3人のうち2人(66.7%)が、赤十字病院・赤十字関係教育機関等に就職しました。なお、学部卒業生のうち約半数の361人(48.4%)が、赤十字奨学金を受給しています。

【看護学部】

(単位:人)

学校名	卒業生数	就職者					進学者 (専門学校を含む)	就職・進学 以外の 進路者	進路 未定者
		合計	内 訳						
			赤十字病院 (%は対卒業生数)	赤十字以外 の病院	その他 (行政等)				
日本赤十字北海道看護大学	107	99	77	72.0%	20	2	5	0	3
(うち赤十字奨学生)	75	75	75		0	0	0	0	0
日本赤十字秋田看護大学	98	89	47	48.0	40	2	5	0	4
(うち赤十字奨学生)	36	36	33		3	0	0	0	0
日本赤十字看護大学	151	137	102	67.5	34	1	13	1	0
(うち赤十字奨学生)	96	94	94		0	0	2	0	0
日本赤十字豊田看護大学	132	128	94	71.2	34	0	2	0	2
(うち赤十字奨学生)	93	89	86		3	0	2	0	2
日本赤十字広島看護大学	138	136	60	43.5	67	9	0	0	2
(うち赤十字奨学生)	35	35	31		2	2	0	0	0
日本赤十字九州国際看護大学	120	106	53	44.2	52	1	9	0	5
(うち赤十字奨学生)	26	24	22		2	0	0	0	2
合 計	746	695	433	58.0	247	15	34	1	16
うち赤十字奨学生合計	361	353	341		10	2	4	0	4

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職者」～「進路未定者」の合計と「卒業生数」とは一致しない場合がある。

【短期大学 介護福祉学科】

(単位:人)

学校名	卒業生数	就職者				
		合計	内 訳			
			赤十字 関係施設	赤十字 以外の 病院	赤十字 以外の 福祉施設	その他 (行政等)
日本赤十字秋田短期大学	20	20	0	1	19	0

※卒業生には赤十字奨学生はいない。

【大学院】

(修士課程)

(単位:人)

学 校 名	修了者数	就 職 者						進学者		進路 未定者 (就職・進学 以外の進路 含む)
		合 計	内 訳				赤十字 関係	赤十字 以外		
			医療機関		その他(行政・教育施設等)					
			赤十字病院 (%は対修了者数)	赤十字以外 の病院	赤十字 関係	赤十字 以外				
日本赤十字北海道看護大学 (うち赤十字奨学生)	8 1	8 1	3 1	37.5% /	4 0	0 0	1 0	0 0	0 0	
日本赤十字秋田看護大学 (うち赤十字奨学生)	6 0	6 0	2 0	33.3 /	4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字看護大学 (うち赤十字奨学生)	43 2	38 2	14 2	32.6 /	20 0	1 0	3 0	1 0	0 0	
日本赤十字豊田看護大学 (うち赤十字奨学生)	4 0	4 0	0 0	0.0 /	4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字広島看護大学 (うち赤十字奨学生)	7 0	7 0	1 0	14.3 /	3 0	2 0	1 0	0 0	0 0	
日本赤十字九州国際看護大学 (うち赤十字奨学生)	7 0	6 0	0 0	0.0 /	5 0	0 0	1 0	1 0	0 0	
合 計	75	69	20	26.7	40	3	6	2	0	4
うち赤十字奨学生合計	3	3	3	100.0	0	0	0	0	0	0

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了者数」とは一致しない場合がある。

(博士課程)

(単位:人)

学 校 名	修了者数	就 職 者						進学者		進路 未定者 (就職・進学 以外の進路 含む)
		合 計	内 訳				赤十字 関係	赤十字 以外		
			医療機関		その他(行政・教育施設等)					
			赤十字病院 (%は対修了者数)	赤十字以外 の病院	赤十字 関係	赤十字 以外				
日本赤十字北海道看護大学 (うち赤十字奨学生)	2 0	2 0	0 0	0.0% /	1 0	1 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字秋田看護大学 (うち赤十字奨学生)	0 0	0 0	0 0	0.0 /	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字看護大学 (うち赤十字奨学生)	0 0	0 0	0 0	0.0 /	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字豊田看護大学 (うち赤十字奨学生)	0 0	0 0	0 0	0.0 /	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字広島看護大学 (うち赤十字奨学生)	1 0	1 0	0 0	0.0 /	0 0	1 0	0 0	0 0	0 0	
日本赤十字九州国際看護大学 (うち赤十字奨学生)	0 0	0 0	0 0	0.0 /	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
小 計	3	3	0	0.0	1	2	0	0	0	
うち赤十字奨学生小計	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	
5年一貫制博士課程 日本赤十字看護大学 (うち赤十字奨学生)	0 0	0 0	0 0	0.0 /	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	
小 計	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	
うち赤十字奨学生小計	0	0	0	—	0	0	0	0	0	
合 計	3	3	0	0.0	1	2	0	0	0	
うち赤十字奨学生合計	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	

※「就職」と「進学」には働きながら進学する者を各々計上しているため、「就職」～「進路未定者」の合計と「修了生数」とは一致しない場合がある。

4 国家試験の合格状況 (看護師・保健師・助産師・介護福祉士 令和3年3月26日発表)

6大学における各国家試験の新卒者の平均合格率は、看護師98.4%、保健師99.4%及び助産師100%でした。また、短期大学の介護福祉士国家試験の合格率は100%でした。引き続き各大学では、合格率100%を目指し、教育・指導を強化することとしています。

●第110回看護師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	107	105	98.1%	106	105	99.1%	1	0	0.0%
日本赤十字秋田看護大学	101	98	97.0	98	95	96.9	3	3	100.0
日本赤十字看護大学	143	143	100.0	142	142	100.0	1	1	100.0
日本赤十字豊田看護大学	136	134	98.5	132	130	98.5	4	4	100.0
日本赤十字広島看護大学	141	139	98.6	137	136	99.3	4	3	75.0
日本赤十字九州国際看護大学	125	118	94.4	120	115	95.8	5	3	60.0
合計	753	737	97.9	735	723	98.4	18	14	77.8

●第107回保健師国家試験

(単位:人)

学校名	合計			新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学	21	21	100.0%	19	19	100.0%	2	2	100.0%
日本赤十字秋田看護大学	51	51	100.0	50	50	100.0	1	1	100.0
日本赤十字看護大学	21	21	100.0	20	20	100.0	1	1	100.0
日本赤十字豊田看護大学	21	21	100.0	21	21	100.0	0	0	—
日本赤十字広島看護大学	32	31	96.9	30	30	100.0	2	1	50.0
日本赤十字九州国際看護大学	15	14	93.3	15	14	93.3	0	0	—
合計	161	159	98.8	155	154	99.4	6	5	83.3

●第104回助産師国家試験

(単位:人)

学校名	新卒		
	受験者	合格者	合格率
日本赤十字北海道看護大学大学院	4	4	100.0%
日本赤十字秋田看護大学大学院	6	6	100.0
日本赤十字看護大学大学院	12	12	100.0
日本赤十字九州国際看護大学大学院	5	5	100.0
計(大学院)	27	27	100.0
日本赤十字広島看護大学(学部)	10	10	100.0
合計	37	37	100.0

※既卒の受験者はいない。

●第33回介護福祉士国家試験(新卒)

(単位:人)

学校名	受験者	合格者	合格率
日本赤十字秋田短期大学	20	20	100.0%

※既卒の受験者はいない。

各大学においては、学生のニーズに配慮した質の高い看護教育への取組みを実施しています。また、短期大学では、医療・福祉の現場で活躍できる介護福祉士教育が行われています。

教育活動の動向

1 ICTを活用した教育の推進

平成28年度から、北海道、秋田、豊田、広島及び九州の5看護大学が連携して「大学院看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)」を設置し、当学園専用の光回線で結ぶ遠隔教育システムを用いた教育が実施されています。これまでに蓄積してきた赤十字の教育・研究の資源や成果を1つの「共同教育課程」を通じて有機的に機能させ、看護の発展に寄与できる研究者、教育者及び実践者の養成を目指しています。

また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各大学においては対面授業の実施が困難となったこともあり、ICTを活用した遠隔教育の体制整備が図られ、効果的に実施されました。

2 赤十字病院等と連携した臨地実習

各大学では、臨地実習科目の約7割、多い大学では8割以上を赤十字病院等と連携して行っています。また、赤十字病院では、看護教員資格を取得可能な研修や臨地実習指導者養成講習会などの教育・指導に関する研修を修了した者が師長で9割強、係長で5割近くおり、質の高い臨地実習環境が提供されています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、臨地実習を学内実習に代替したものが数多くありましたが、病院とICTにより遠隔でつなぎ実践者の指導を受ける等学びの質の担保に心がけました。

3 大学院における専門看護師(CNS)教育課程の推進

保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護実践の質の向上を図ることに寄与できる高度専門職業人としての看護師を育成するため、全看護大学大学院において、専門看護師(CNS)教育課程を開設しています。

令和2年度は、4看護大学で合計19人が同教育課程を修了しました。なお、CNS教育課程は、わが国の少子高齢社会や医師不足を背景に、これまでにない看護への社会からの期待に応えられるよう、26単位教育については令和6年度からすべて38単位教育に移行する予定としています。

●専門看護師(CNS)教育課程を設置する大学

(単位:人)

学校名	教育課程名	日本看護系大学協議会認定単位	修了者数	学校名	教育課程名	日本看護系大学協議会認定単位	修了者数
日本赤十字 北海道看護大学大学院	慢性看護	38	0	日本赤十字 豊田看護大学大学院	母性看護	26	0
	精神看護	38	0		精神看護	26	0
	がん看護 ※1	—	—		精神看護	38	0
日本赤十字 秋田看護大学大学院	がん看護	38	1		小児看護	26	1
	精神看護	38	1		小児看護	38	0
日本赤十字 看護大学大学院	がん看護	38	2		日本赤十字 広島看護大学大学院	小児看護	38
	小児看護	38	1	精神看護		38	0
	慢性看護	38	2	災害看護		38	1
	クリティカルケア看護	38	3	日本赤十字 九州国際看護大学院	クリティカルケア看護	38	0
	老年看護	38	1		在宅看護	38	0
	精神看護	38	1		合計	—	19
	在宅看護	38	2	※各大学とも看護学研究科看護学専攻修士課程に設置 ※1は休講中			
	災害看護	38	2	注)CNS: Certified Nurse Specialist			

4 認定看護管理者(CNA)教育課程の設置

3看護大学大学院(日看護・豊田・広島)では、認定看護管理者の認定審査を受験できるコース等を設置して資格取得に向けた教育を行っており、令和2年度は8人が修了しました。

●認定看護管理者(CNA)認定審査の受験資格が取得可能な大学

(単位:人)

学校名	領域	修了者数
日本赤十字 看護大学大学院	看護管理学領域	3
日本赤十字 豊田看護大学大学院	看護管理学領域	0
日本赤十字 広島看護大学大学院	看護教育・管理学領域 (教育・研究者コース)	5
合計	—	8

※各大学とも修士課程に設置

注)CNA: Certified Nurse Administrator

5 認定看護師(CN)資格取得に向けた取組み

日本赤十字広島看護大学では、認定看護師教育課程を開講し、令和2年度は15人が修了しました。

●認定看護師(CN)教育課程を開設する大学

(単位:人)

学校名	教育課程名	修了者数
日本赤十字広島看護大学 (ヒューマンケアリングセンター)	摂食・嚥下障害看護	15

注)CN: Certified Nurse

研究活動の動向

当学園が設置する各大学の教員は、災害・国際看護などの看護学に関する研究、看護教育に関する研究、赤十字に関する研究など、個々の専門性を活かした研究に取り組みました。

1 学園基金等による研究活動助成

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」では、赤十字に関する研究として5件の応募があり、全件を採択しました。令和元年度からの継続事業1件及び平成30年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計7件の研究助成を決定し、6,926千円を交付しました。なお、繰り越し事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により研究期間を延長したものです。

教員の教育・研究活動を推進するための「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援については、3件の応募があり、1件を採択しました。平成30年度からの繰り越し事業1件を合わせ、合計2件の研究助成を決定し、571千円を交付しました。

●令和2年度「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成」による支援事業の状況【新規事業】

学 校 名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	看護大学生の生活習慣と生活環境が学修成果に及ぼす影響	2年
日本赤十字看護大学	地域医療支援病院でセルフケア支援を普及させる看護職の役割モデルの検討	2年
	国際協力の病院医療支援事業における効果的なテクニカルアドバイザーモデルの構築案	1年
	戦争神経症に関する精神科医療及び看護の変遷 —赤十字の戦時救護活動に焦点をあてて—	2年
	東日本大震災後に糖尿病を発症・悪化した人びとにおける生活経験の現象学的記述—複合災害に見舞われた福島県相馬・南相馬地区での調査を介して—	2年
2 大学 5 件		

【継続事業】

学 校 名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字看護大学	インドネシア共和国における看護系教育機関での災害看護教育の充実に向けて —教員の教育方法の検討—	2年
1 大学 1 件		

【平成30年度事業のうち令和2年度へ繰り越した事業】

学 校 名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字広島看護大学	Appreciative Inquiry を活用した中堅看護職のリーダーシップ能力開発プログラムの検討	2年
1 大学 1 件		

●令和2年度「学校法人日本赤十字学園教育・研究及び奨学費基金」による支援事業の状況【新規事業】

学 校 名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字豊田看護大学	看護学実習における看護学生に求める主体性尺度の開発に関する研究	2年
1 大学 1 件		

【平成30年度事業のうち令和2年度へ繰り越した事業】

学 校 名	支援事業テーマ	研究期間
日本赤十字秋田看護大学	在宅への移行を見据えた病棟看護と多職種連携実践能力の関連 —2つの尺度を用いた関連検証を通して—	2年
1 大学 1 件		

2 科学研究費等競争的外部資金に係る申請・採択状況

各大学の教員は、研究活動の活性化のため、科学研究費等競争的外部資金への応募を行っています。令和2年度は、6看護大学で合計113件(前年度104件)の新規応募を行い、30件(26.5%, 前年度26件)が採択されました。

また、助成金額の合計額は、「直接経費」が113,878千円(前年度90,817千円)、「間接経費」が31,792千円(前年度25,320千円)の合わせて145,670千円(前年度116,137千円)でした。

● 令和2年度科学研究費等競争的外部研究資金に係る申請・採択状況

【大学別採択件数】

(単位:件)

学 校 名	研究代表者				研 究 分 担 者
	新 規		継 続	合 計	
	申 請	採 択			
日本赤十字北海道看護大学	30	0	5	5	4
日本赤十字秋田看護大学	13	5	6	11	6
日本赤十字看護大学	25	12	27	39	15
日本赤十字豊田看護大学	21	6	13	19	15
日本赤十字広島看護大学	13	6	13	19	10
日本赤十字九州国際看護大学	11	1	10	11	18
日本赤十字秋田短期大学	0	0	0	0	1
合 計	113	30	74	104	69

【大学別助成金額】

(単位:千円)

学 校 名	直接経費				間 接 経 費	合 計
	研究代表者		研究分担者	小 計		
	新 規	継 続				
日本赤十字北海道看護大学	0	14,198	400	14,598	2,781	17,379
日本赤十字秋田看護大学	6,650	3,100	850	10,600	3,180	13,780
日本赤十字看護大学	14,859	24,200	2,853	41,912	12,207	54,119
日本赤十字豊田看護大学	5,900	6,000	1,565	13,465	4,039	17,504
日本赤十字広島看護大学	6,900	8,500	560	15,960	4,788	20,748
日本赤十字九州国際看護大学	1,000	13,790	2,513	17,303	4,785	22,088
日本赤十字秋田短期大学	0	0	40	40	12	52
合 計	35,309	69,788	8,781	113,878	31,792	145,670

- 継続研究には、他学園から当学園へ異動してきた者も含む。
- 赤十字と看護・介護に関する研究助成、教育・研究及び奨学費基金にかかる教育・研究事業は除く。
- 「研究分担者」とは、他の大学等の教職員との共同研究において、研究代表者ではない場合である。
- 新規研究には、育児休暇取得に伴い補助金留保となっているもの及び前所属施設で申請されたものも含む。

奨学金の受給状況

6看護大学・1短期大学において、日本赤十字社各支部・病院、日本赤十字社看護師同方会、日本学生支援機構及び自治体等の153機関から、全学生の61.2%にあたる2,111人(実人数)(延べ3,149人(昨年度より108人減)、学部・学科在学生の64.6%、大学院在学生の23.8%)が奨学金を受けました。

そのうち、日本赤十字社各支部・病院からの奨学金は、奨学金受給学生2,111人の38.2%にあたる807人が受給しました。令和2年度より開始した「高等教育の修学支援新制度」を利用した学生は264人でした。

また、6看護大学・1短期大学における奨学金の受給総額は、23億3,572万円で、一人あたり(実人数)の受給額は学部で約101万円、大学院では約106万円となりました。

●赤十字奨学金の大学別受給状況(令和2年度在学生の実績) ※赤十字奨学金を受給している場合に○を付しています。また、短期大学での受給はありませんでした。

支部名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	支部名	北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
北海道							滋賀県						
青森県		○					京都府						
岩手県							大阪府			○	○	○	○
宮城県							兵庫県						
秋田県							奈良県						
山形県							和歌山県						
福島県		○					鳥取県						
茨城県							島根県					○	
栃木県							岡山県						
群馬県							広島県						
埼玉県							山口県						○
千葉県			○				徳島県						
東京都							香川県						
神奈川県							愛媛県						
新潟県							高知県						
山梨県							福岡県						○
富山県				○			佐賀県						○
石川県				○			長崎県						○
福井県							熊本県						○
長野県							大分県						○
岐阜県				○			宮崎県						○
静岡県				○			鹿児島県						○
愛知県				○			沖縄県						○
三重県				○			合計	0	2	2	7	2	10

【医療施設からの受給状況】

医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	医療施設名		北海道看護大学	日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学
1	日本赤十字社医療センター	○	○	○	○	○	○	46	高山赤十字病院						
2	旭川赤十字病院	○						47	岐阜赤十字病院				○		
3	伊達赤十字病院	○						48	静岡赤十字病院			○	○		
4	釧路赤十字病院	○						49	浜松赤十字病院				○	○	
5	北見赤十字病院	○						50	伊豆赤十字病院						
6	栗山赤十字病院	○						51	引佐赤十字病院						
7	浦河赤十字病院	○						52	裾野赤十字病院						
8	小清水赤十字病院	○						53	名古屋第一赤十字病院				○		○
9	置戸赤十字病院	○						54	名古屋第二赤十字病院				○		○
10	函館赤十字病院	○	○					55	伊勢赤十字病院	○		○	○		○
11	清水赤十字病院	○						56	大津赤十字病院						○
12	八戸赤十字病院		○					57	大津赤十字志賀病院						
13	盛岡赤十字病院							58	長浜赤十字病院						
14	仙台赤十字病院		○					59	京都第一赤十字病院					○	○
15	石巻赤十字病院		○					60	京都第二赤十字病院					○	
16	秋田赤十字病院		○					61	舞鶴赤十字病院						
17	福島赤十字病院	○		○				62	大阪赤十字病院						○
18	水戸赤十字病院							63	高槻赤十字病院						
19	古河赤十字病院			○				64	姫路赤十字病院					○	
20	芳賀赤十字病院			○				65	多可赤十字病院						
21	那須赤十字病院		○					66	神戸赤十字病院					○	
22	足利赤十字病院							67	日本赤十字社和歌山医療センター		○			○	
23	前橋赤十字病院							68	鳥取赤十字病院					○	
24	原町赤十字病院							69	松江赤十字病院					○	
25	さいたま赤十字病院			○				70	益田赤十字病院					○	
26	小川赤十字病院							71	岡山赤十字病院					○	
27	深谷赤十字病院			○				72	岡山玉野赤十字病院						
28	成田赤十字病院		○	○			○	73	広島原爆赤十字病院					○	
29	武蔵野赤十字病院	○	○	○	○	○		74	庄原赤十字病院					○	
30	大森赤十字病院	○	○	○			○	75	三原赤十字病院					○	
31	葛飾赤十字産院			○				76	山口赤十字病院					○	○
32	みなと赤十字病院	○	○	○		○	○	77	小野田赤十字病院						
33	秦野赤十字病院	○		○				78	徳島赤十字病院					○	○
34	相模原赤十字病院			○				79	高松赤十字病院					○	
35	長岡赤十字病院		○	○				80	松山赤十字病院					○	
36	山梨赤十字病院							81	高知赤十字病院					○	
37	富山赤十字病院			○				82	福岡赤十字病院						○
38	金沢赤十字病院							83	今津赤十字病院						
39	福井赤十字病院				○			84	嘉麻赤十字病院						○
40	長野赤十字病院		○	○	○			85	唐津赤十字病院						
41	諏訪赤十字病院				○			86	日本赤十字社長崎原爆赤十字病院						
42	安曇野赤十字病院				○			87	日本赤十字社長崎諫早赤十字病院						
43	川西赤十字病院							88	熊本赤十字病院						
44	下伊那赤十字病院							89	大分赤十字病院						
45	飯山赤十字病院				○			90	鹿児島赤十字病院						○
								91	沖縄赤十字病院						
								合計		17	14	18	13	21	15

日本赤十字国際人道研究センター(英文名Japanese Red Cross Institute for Humanitarian Studies)は、当学園が設置する6大学、1短期大学の教育研究の専門人材を活かした人道問題に関する学術的な拠点として、調査・研究事業等を実施することを目的に、平成23年4月、日本赤十字看護大学内に日本赤十字社の協力を得て、開設されました。

主な事業内容

- 国際赤十字(日本赤十字社を含む。以下同じ。)の歴史・史料に関する調査研究
- 国際赤十字の活動及び事業に関する調査研究
- 国際人道法の普及及び調査研究に必要な事業
- 国際赤十字関係機関・団体等との学術研究の連携・協力
- 看護大学・短期大学が行う調査研究の支援

令和2年度の研究活動

1 「人道研究ジャーナル」Vol.10の刊行

本誌は、日本赤十字国際人道研究センターの機関誌として位置づけているものです。今年度は赤十字の歴史や人道問題を取り巻く諸課題について特集を組んで刊行しました。

主な特集記事は、①核兵器禁止条約発効、②戦争と人道、③東日本大震災10年など。

1,600部を制作し、日本赤十字社各都道府県支部・施設をはじめ、関連省庁、主要人道関連団体、主要大学研究者、主要大学図書館及び教育機関等へ配布。



「人道研究ジャーナル」Vol.10

2 教育・啓発用資材の開発・制作

①「R+Travel 国内版赤十字ゆかりの地ガイドブック」のデザイン制作

日本赤十字社都道府県支部・施設から、創立者佐野常民をはじめとした関係者、日本赤十字社創立や歴史的事業にかかわるゆかりの地・史料などの情報を収集し、令和3年度の製本に向けて、本年度は掲載内容及びデザインをデータ化しました。

②「ジャーナリストのための国際人道法」の制作

本冊子は、英国赤十字社が制作したもので、その内容は多くの報道機関、メディア関係者にとり有益な普遍的内容を網羅していることから、当センターにて翻訳し、1,200部を制作し、新聞社、通信社、テレビ局等の主要な報道機関や報道関係者、日本赤十字社都道府県支部に提供しました。

令和3年度には、主要な報道機関を対象に、国際人道法等の説明会の場を設定し、その場においても配付する予定です。



ジャーナリストのための国際人道法

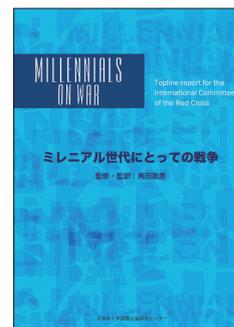
③ 「ミレニアル世代にとっての戦争」の制作

赤十字国際委員会は、世界16か国で、西暦2000年以降に成人を迎えた20代前半から30代後半、すなわち近い将来、意思決定を担う立場になる年齢層の約16,000人を対象に、戦争に対する意識調査を実施。国別や男女別など様々な観点からの意識を比較しています。

本調査結果を、当センターにて翻訳し、2,000部を制作。

日本赤十字社都道府県支部・施設をはじめ、関連省庁、主要人道関連団体、主要大学研究者、主要大学図書館及び教育機関等へ配布しました。

今後は、「ジャーナリストのための国際人道法」と併せて、主要な報道機関への配布も予定しています。



ミレニアル世代にとっての戦争

3 日本赤十字社の歴史史料調査・収集

① 戦時救護看護婦への聞き取り調査

令和元年度、登米市歴史博物館及び日本赤十字社本社で閲覧した加藤さん氏に関する資料を整理し、第1次世界大戦、シベリア出兵、日中戦争における救護活動および朝香宮鳩彦王殿下・北白川宮房子内親王殿下の看護に関する報告書を「人道研究ジャーナル」vol.10に「調査報告 戦時救護の記録 加藤さんの救護活動」として掲載しました。

② 日本赤十字看護大学における歴史史料の展示等

日本赤十字看護大学の看護の歴史に関する史料の収集と保存、閲覧サービス、学内やホームページでの展示を継続して行いました。

また看護にかかる歴史的史料について、寄贈を受けたものを中心に記録写真集(第13巻)を作成し、全国の赤十字看護大学等へ配布しました。



日看大展示

4 コロナ禍の影響

本年度は、全国的なコロナ禍の影響のため、当センター研究員の派遣事業や、一般を対象としたシンポジウム等の開催は中止となりました。令和3年度においても、コロナ禍の状況を注視しながらの事業実施となります。

学校会計の決算状況を報告します

1 資金収支決算

資金収支計算書は、当該会計年度の教育・研究その他の活動に対応する全ての収入・支出の内容並びに支払資金の動きを明らかにするものです。

1 資金収入の部

資金収入合計 **12,968,960**千円（前年度比 **270,737**千円 **増**）

資金収入合計で、**増額**となりました。

（単位：千円）

科目	令和2年度			令和元年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
学生生徒等納付金収入	5,482,165	5,377,575	104,590	5,281,160	① 96,415	1.8
手数料収入	128,366	118,327	10,039	119,144	△ 817	△ 0.7
寄付金収入	58,088	147,096	△ 89,008	55,012	② 92,084	167.4
補助金収入	917,936	1,037,602	△ 119,666	821,667	③ 215,935	26.3
資産売却収入	0	5	△ 5	39	△ 34	△ 87.2
付随事業・収益事業収入	51,287	40,623	10,664	40,516	107	0.3
受取利息・配当金収入	119,161	109,384	9,777	110,614	△ 1,230	△ 1.1
雑収入	49,851	42,438	7,413	52,779	④ △ 10,341	△ 19.6
借入金等収入	0	0	0	0	0	—
前受金収入	494,960	480,818	14,142	482,538	△ 1,720	△ 0.4
その他の収入	1,488,314	1,878,710	△ 390,396	1,847,575	31,135	1.7
資金収入調整勘定	△ 517,457	△ 583,450	65,993	△ 596,430	12,980	△ 2.2
前年度繰越支払資金	4,319,822	4,319,827	△ 5	4,483,605	⑤ △ 163,778	△ 3.7
合計	12,592,493	12,968,960	△ 376,467	12,698,223	270,737	2.1

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

① 学生生徒等納付金収入 前年度比 **96,415**千円 **増**

→ 令和2年度の日本赤十字看護大学さいたま看護学部開設に伴い前年度に比べ在学学生数が増加したことにより、前年度比**96,415**千円の**増額**となりました。

② 寄付金収入 前年度比 **92,084**千円 **増**

→ 日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う日本赤十字社からの助成金及び、各大学の学生修学支援のための寄付金の増加等により、前年度比**92,084**千円の**増額**となりました。

③ 補助金収入 前年度比 **215,935**千円 **増**

→ 国による高等教育の修学支援新制度開始に伴う各大学の国庫補助金の増加及び豊田看護大学の発電設備更新に対する国庫補助金の交付等により、前年度比**215,935**千円の**増額**となりました。

④ 雑収入 前年度比 **10,341**千円 **減**

→ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う各大学の学内施設設備利用の減少等により、前年度比**10,341**千円の**減額**となりました。

⑤ 前年度繰越支払資金 前年度比 **163,778**千円 **減**

→ 前年度繰越支払資金（現預金）は前年度比**163,778**千円の**減額**となりました。

資金支出合計 12,968,960千円（前年度比 270,737千円 増）

資金支出合計で、増額となりました。

（単位：千円）

科目	令和2年度			令和元年度 決算額	対前年度比較	
	予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)
人件費支出	4,397,336	4,259,933	137,403	4,233,933	26,000	0.6
教育研究経費支出	1,595,522	1,499,489	96,033	1,298,162	① 201,327	15.5
管理経費支出	389,494	335,367	54,127	538,513	② △ 203,146	△ 37.7
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	—
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	—
施設関係支出	327,161	312,213	14,948	178,663	③ 133,550	74.7
設備関係支出	347,367	274,849	72,518	375,772	④ △ 100,923	△ 26.9
資産運用支出	473,274	376,409	96,865	448,501	⑤ △ 72,092	△ 16.1
その他の支出	1,612,806	2,003,851	△ 391,045	1,899,309	104,542	5.5
予備費	3,400	0	3,400	0	0	—
資金支出調整勘定	△ 443,797	△ 425,719	△ 18,078	△ 594,461	168,742	△ 28.4
翌年度繰越支払資金	3,889,930	4,332,565	△ 442,635	4,319,827	⑥ 12,738	0.3
合計	12,592,493	12,968,960	△ 376,467	12,698,223	270,737	2.1

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

①教育研究経費支出 前年度比201,327千円 増

→国による高等教育の修学支援新制度の開始に伴う奨学費支出の増加の他、新型コロナウイルス感染症の影響により、旅費交通費支出、委託実習費支出等が減少した一方、感染症対策による消耗品費支出等経費の増加、学生支援のための学生福利費支出の増加等により、前年度比201,327千円の増額となりました。

②管理経費支出 前年度比203,146千円 減

→前年度計上した法人本部におけるさいたま看護学部設置に伴う備品等整備に係る消耗品費支出、業務委託費支出等の減少により、前年度比203,146千円の減額となりました。

③施設関係支出 前年度比133,550千円 増

→秋田看護大学、広島看護大学における校舎の空調設備の更新等により、133,550千円の増額となりました。

④設備関係支出 前年度比100,923千円 減

→前年度計上した法人本部におけるさいたま看護学部設置に伴う教育研究用機器備品支出の減少等により、前年度比100,923千円の減額となりました。

⑤資産運用支出 前年度比72,092千円 減

→各大学が計上した施設設備整備引当特定資産への繰入支出の減少等により、前年度比72,092千円の減額となりました。

⑥翌年度繰越支払資金 前年度比12,738千円 増

→翌年度繰越支払資金（現預金）は、12,738千円の増額となりました。

2

事業活動
収支決算

事業活動収支計算書は、学生生徒等納付金等本業の教育活動に対する「教育活動収支」、受取利息等財務活動に対する「教育活動外収支」、資産売却等臨時的な活動に対する「特別収支」の3つに区分して表示しています。

また、本計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容や、基本金組入額、基本金取崩額等を含め、事業収支の均衡状態を示すものであります。

(単位：千円)

区分	科目	令和2年度			令和元年度 決算額	対前年度比較		
		予算額	決算額	差異		増減額	増減率(%)	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	5,482,165	5,377,575	104,590	5,281,160	① 96,415	1.8
		手数料	128,366	118,327	10,039	119,144	△ 817	△ 0.7
		寄付金	57,560	82,304	△ 24,744	51,990	② 30,314	58.3
		経常費等補助金	917,936	972,345	△ 54,409	821,667	③ 150,678	18.3
		付随事業収入	51,287	40,623	10,664	40,516	107	0.3
		雑収入	49,951	40,043	9,908	52,863	④ △ 12,820	△ 24.3
		計	6,687,265	6,631,221	56,044	6,367,342	263,879	4.1
	事業活動支出の部	人件費	4,591,708	4,415,988	175,720	4,229,491	⑥ 186,497	4.4
		教育研究経費	2,364,355	2,300,643	63,712	1,991,312	⑦ 309,331	15.5
		管理経費	420,968	367,448	53,520	632,087	⑧ △ 264,639	△ 41.9
徴収不能額等		0	420	△ 420	0	420	—	
計		7,377,031	7,084,501	292,530	6,852,891	231,610	3.4	
教育活動収支差額		△ 689,766	△ 453,279	△ 236,487	△ 485,548	32,269	△ 6.6	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	119,160	109,384	9,776	110,614	△ 1,230	△ 1.1
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	—
		計	119,160	109,384	9,776	110,614	△ 1,230	△ 1.1
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	0	—
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	—
		計	0	0	0	0	0	—
教育活動外収支差額		119,160	109,384	9,776	110,614	△ 1,230	△ 1.1	
経常収支差額		△ 570,606	△ 343,895	△ 226,711	△ 374,934	31,039	△ 8.3	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	2,044	△ 2,044	39	2,005	5141.0
		その他の特別収入	1,668	146,931	△ 145,263	6,233	⑤ 140,698	2257.3
		計	1,668	148,975	△ 147,307	6,273	142,702	2274.9
	事業活動支出の部	資産処分差額	17,130	21,962	△ 4,832	19,974	1,988	10.0
		その他の特別支出	1,000	3,818	△ 2,818	376	3,442	915.4
		計	18,130	25,780	△ 7,650	20,351	5,429	26.7
特別収支差額		△ 16,462	123,194	△ 139,656	△ 14,077	137,271	△ 975.1	
予備費		3,400	0	3,400	0	0	—	
基本金組入前当年度収支差額		△ 590,468	△ 220,700	△ 369,768	△ 389,012	168,312	△ 43.3	
基本金組入額合計		△ 619,511	△ 2,854,408	2,234,897	△ 312,419	△ 2,541,989	813.6	
当年度収支差額		△ 1,209,979	△ 3,075,109	1,865,130	△ 701,431	△ 2,373,678	338.4	
前年度繰越収支差額		405,665	405,667	△ 2	1,045,249	△ 639,582	△ 61.2	
基本金取崩額		49,373	2,705,727	△ 2,656,354	61,848	2,643,879	4274.8	
翌年度繰越収支差額		△ 754,941	36,285	△ 791,226	405,667	△ 369,382	△ 91.1	
参考	事業活動収入計	6,808,093	6,889,581	△ 81,488	6,484,230	405,351	6.3	
	事業活動支出計	7,398,561	7,110,282	288,279	6,873,242	237,040	3.4	

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

1 事業活動収入の部

① 学生生徒等納付金 前年度比96,415千円 増

→令和2年度の日本赤十字看護大学さいたま看護学部開設に伴い前年度に比べ在学学生数が増加したことにより、前年度比96,415千円の増額となりました。

② 寄付金 前年度比30,314千円 増

→学生の修学支援のための寄付金の増加等により、前年度比30,314千円の増額となりました。

③ 経常費等補助金 前年度比150,678千円 増

→国による高等教育の修学支援新制度開始に伴う各大学の国庫補助金の増加等により、前年度比150,678千円の増額となりました。

④ 雑収入 前年度比12,820千円 減

→新型コロナウイルス感染症拡大に伴う各大学の学内施設設備利用の減少等により、前年度比12,820千円の減額となりました。

⑤ その他の特別収入 前年度比140,698千円 増

→日本赤十字看護大学さいたま看護学部設置に伴う日本赤十字社からの助成金及び、豊田看護大学の発電設備更新に対する国庫補助金の交付等により、前年度比140,698千円の増額となりました。

2 事業活動支出の部

⑥ 人件費 前年度比186,497千円 増

→令和2年度日本赤十字看護大学さいたま看護学部開設による教職員の確保に伴う人件費の増加等により、前年度比186,497千円の増額となりました。

⑦ 教育研究経費 前年度比309,331千円 増

→国による高等教育の修学支援新制度の開始に伴う奨学金の増加の他、新型コロナウイルス感染症の影響により、旅費交通費、委託実習費等が減少した一方、感染症対策による消耗品費等経費の増加、学生支援のための学生福利費の増加等により、前年度比309,331千円の増額となりました。

⑧ 管理経費 前年度比264,639千円 減

→前年度計上した法人本部におけるさいたま看護学部設置に伴う備品等整備に係る消耗品費、業務委託費等の減少により、前年度比264,639千円の減額となりました。

3 基本金組入額等

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入から組み入れた金額です。

令和2年度は、基本金全体としては、2,854,408千円組み入れ、2,705,727千円取り崩しました。

(参考) 基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

- 第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、令和2年度は秋田看護大学及び4大学で合わせて2,833,408千円を組み入れ、本部及び2大学で合わせて2,705,727千円を取り崩しました。なお、上記金額には法人内の建物等の移管による金額を含んでおります。(秋田短期大学から秋田看護大学、法人本部から日本赤十字看護大学への移管)
- 第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学金基金等の設定であり、令和2年度の組み入れはありません。
- 第4号基本金は、恒常的な資金の維持のための設定であり、令和2年度は法人本部で21,000千円を組み入れました。

1 資産の部

(単位：千円)

科目		年度	令和2年度	令和元年度	増減
資産の部	固定資産		44,799,547	44,981,105	△ 181,558
	有形固定資産		23,459,533	23,690,938	① △ 231,405
	特定資産		21,117,332	21,043,255	② 74,077
	その他の固定資産		222,681	246,911	③ △ 24,230
	流動資産		4,466,062	4,442,640	④ 23,422
	資産の部合計		49,265,610	49,423,745	△ 158,135

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【資産の部】

①有形固定資産 前年度比231,405千円 減

→秋田看護大学、広島看護大学の空調設備他、各大学の固定資産の整備があった一方、設備等の更新に伴う除却及び減価償却額の計上により減少しました。

②特定資産 前年度比74,077千円 増

→施設設備の更新等に使用する施設設備整備引当特定資産の取崩しがあった一方、退職給与引当特定資産等への繰入れにより増加しました。

③その他の固定資産 前年度比24,230千円 減

→ソフトウェアの減価償却額の計上等により減少しました。

④流動資産 前年度比23,422千円 増

→前年度計上した施設設備整備引当特定資産への繰入れの減少の影響もあり、現金・預金等が増加しました。

2 負債・純資産の部

(単位：千円)

科目		年度	令和2年度	令和元年度	増減
負債の部	固定負債		1,915,265	1,753,254	① 162,011
	流動負債		1,168,362	1,267,808	② △ 99,446
	負債の部合計		3,083,628	3,021,063	62,565
純資産の部	基本金		46,145,696	45,997,015	③ 148,681
	繰越収支差額		36,285	405,667	④ △ 369,382
	純資産の部合計		46,181,981	46,402,682	△ 220,701
負債及び純資産の部合計			49,265,610	49,423,745	△ 158,135

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計が一致しないことがある。

【負債の部】

① 固定負債 前年度比**162,011千円** 

→退職給与引当金の影響により**増加**しました。

② 流動負債 前年度比**99,446千円** 

→年度末に計上した未払金により**減少**しました。

【純資産の部】

③ 基本金 前年度比**148,681千円** 

→秋田看護大学、広島看護大学における校舎空調設備更新等により固定資産取得による組み入れを行ったため、第1号基本金は**増加**しました。

→恒常的な資金の維持として計上した資金の組み入れを行ったため、第4号基本金は若干**増加**しました。

④ 繰越収支差額 前年度比**369,382千円** 

→基本金組入額等1.4億円の増及び有形固定資産の減価償却による減等により、繰越収支差額は**減少**しました。

4 財産目録

財産目録は、令和3年3月31日現在の基本財産、運用財産、負債額を示したものです。

①資産総額 49,265,610,213円

→内 基本財産 23,507,842,272円
運用財産 25,757,767,941円

②負債総額 3,083,628,268円

正味財産 46,181,981,945円

(単位：円)

科目	数量	金額
①資産		49,265,610,213
1 基本財産		23,507,842,272
(1) 土地 (校舎敷地、運動場等)	205,651.48㎡	7,270,018,309
(2) 建物 (校舎、図書館、体育館等)	104,022.96㎡	13,499,007,484
(3) 図書 (和書、洋書、視聴覚資料 12,123 点)	371,269冊	1,613,732,500
(4) 教具等 (教具、校具、管理用備品)	18,555点	961,819,080
(5) 構築物 (道路舗装工事他)		103,037,505
(6) その他 (車両、電話加入権等)		60,227,394
2 運用財産		25,757,767,941
(1) 預金・現金		4,332,565,019
(2) 積立金 (施設設備整備引当特定資産等)		21,117,332,342
(3) 有価証券 (国債等)		167,593,192
(4) 不動産 (土地)		163,584
(5) 長期貸付金 (奨学金)		6,478,500
(6) 差入保証金 (敷金等)		137,490
(7) 未収入金 (地方公共団体補助金等)		114,862,260
(8) 前払金・立替金・短期貸付金		18,635,554
②負債		3,083,628,268
1 固定負債 (長期未払金、退職給与引当金)		1,915,265,909
2 流動負債 (前受金、未払金、預り金)		1,168,362,359
借用財産		
1 土地 (校舎敷地等)	67,710.29㎡	
2 建物 (寄宿舎等)	3,619.34㎡	

5 参考

1 過去5ヵ年の資金収支計算書(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度			
	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	金額	構成比率(%)	対前年比(%)	
資金収入の部	学生生徒等納付金収入	5,341,242	36.2	5,343,091	35.7	5,330,656	36.1	5,281,160	41.6	5,377,575	41.5	101.8
	手数料収入	118,718	0.8	112,046	0.7	114,578	0.8	119,144	0.9	118,327	0.9	99.3
	寄付金収入	78,832	0.5	213,666	1.4	64,613	0.4	55,012	0.4	147,096	1.1	267.4
	補助金収入	975,050	6.6	1,082,030	7.2	875,049	5.9	821,667	6.5	1,037,602	8.0	126.3
	資産売却収入	601,020	4.1	428	0.0	10,010	0.1	39	0.0	5	0.0	12.8
	付随事業・収益事業収入	89,258	0.6	74,247	0.5	48,922	0.3	40,516	0.3	40,623	0.3	100.3
	受取利息・配当金収入	128,307	0.9	111,571	0.7	111,123	0.8	110,614	0.9	109,384	0.8	98.9
	前受金収入	637,705	4.3	518,985	3.5	482,110	3.3	482,538	3.8	480,818	3.7	99.6
	その他の収入等	1,715,950	11.6	2,060,654	13.8	2,609,082	17.7	1,900,354	15.0	1,921,148	14.8	101.1
	資金収入調整勘定	△ 671,505	△ 4.5	△ 672,974	△ 4.5	△ 553,808	△ 3.7	△ 596,430	△ 4.7	△ 583,450	△ 4.5	97.8
	前年度繰越支払資金	5,753,612	39.0	6,137,758	41.0	5,678,350	38.4	4,483,605	35.3	4,319,827	33.3	96.3
	資金収入合計	14,768,192	100.0	14,981,505	100.0	14,770,686	100.0	12,698,223	100.0	12,968,960	100.0	102.1
資金支出の部	人件費支出	4,071,750	27.6	3,899,531	26.0	4,041,547	27.4	4,233,933	33.3	4,259,933	32.8	100.6
	教育研究経費支出	1,560,668	10.6	1,337,204	8.9	1,325,577	9.0	1,298,162	10.2	1,499,489	11.6	115.5
	管理経費支出	354,005	2.4	420,875	2.8	372,067	2.5	538,513	4.2	335,367	2.6	62.3
	借入金等利息・返済支出	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	-
	施設関係支出	24,421	0.2	70,256	0.5	1,736,811	11.8	178,663	1.4	312,213	2.4	174.7
	設備関係支出	184,594	1.2	542,494	3.6	192,950	1.3	375,772	3.0	274,849	2.1	73.1
	資産運用支出	1,507,966	10.2	1,666,819	11.1	1,374,080	9.3	448,501	3.5	376,409	2.9	83.9
	その他支出	1,509,891	10.2	1,829,308	12.2	1,725,125	11.7	1,899,309	15.0	2,003,851	15.5	105.5
	資金支出調整勘定	△ 582,864	△ 3.9	△ 463,336	△ 3.1	△ 481,076	△ 3.3	△ 594,461	△ 4.7	△ 425,719	△ 3.3	71.6
	翌年度繰越支払資金	6,137,758	41.6	5,678,350	37.9	4,483,605	30.4	4,319,827	34.0	4,332,565	33.4	100.3
	資金支出合計	14,768,192	100.0	14,981,505	100.0	14,770,686	100.0	12,698,223	100.0	12,968,960	100.0	102.1

*資金収支においては、その年度の現金の動きを表示していることから、収入合計と支出合計額が一致している。

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

*学校法人全体の資金収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。

*各科目の構成比率は、それぞれの合計に占める割合となっている。

2 過去5ヵ年の事業活動収支計算書(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度				
	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	5,341,242	78.6	5,343,091	76.0	5,330,656	80.7	5,281,160	81.4	5,377,575	78.1	101.8	
	手数料	118,718	1.7	112,046	1.6	114,578	1.7	119,144	1.8	118,327	1.7	99.3	
	寄付金	77,502	1.1	63,335	0.9	55,134	0.8	51,990	0.8	82,304	1.2	158.3	
	経常費等補助金	941,533	13.9	1,082,030	15.4	875,049	13.2	821,667	12.7	972,345	14.1	118.3	
	付随事業収入	89,258	1.3	74,247	1.1	48,922	0.7	40,516	0.6	40,623	0.6	100.3	
	雑収入	55,119	0.8	52,394	0.7	57,802	0.9	52,863	0.8	40,043	0.6	75.7	
	計	6,623,373	97.5	6,727,145	95.7	6,482,141	98.1	6,367,342	98.2	6,631,221	96.2	104.1	
教育活動支出の部	人件費	4,080,546	54.8	4,046,653	61.7	4,087,366	61.9	4,229,491	61.5	4,415,988	62.1	104.4	
	教育研究経費	2,299,704	30.9	2,045,489	31.2	2,075,996	31.4	1,991,312	29.0	2,300,643	32.4	115.5	
	管理経費	528,602	7.1	450,137	6.9	421,158	6.4	632,087	9.2	367,448	5.2	58.1	
	徴収不能額等	600	0.0	200	0.0	0	0.0	0	0.0	420	0.0	-	
	計	6,909,454	92.7	6,542,480	99.8	6,584,520	99.7	6,852,891	99.7	7,084,501	99.6	103.4	
教育活動収支差額	△ 286,080	-	184,665	-	△ 102,379	-	△ 485,548	-	△ 453,279	-	93.4		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	128,307	1.9	111,571	1.6	111,123	1.7	110,614	1.7	109,384	1.6	98.9	
	その他の教育活動外収入	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-	
	計	128,307	1.9	111,571	1.6	111,123	1.7	110,614	1.7	109,384	1.6	98.9	
	教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-
		その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-
計	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	-		
教育活動外収支差額	128,307	-	111,571	-	111,123	-	110,614	-	109,384	-	98.9		
経常収支差額	△ 157,772	-	296,237	-	8,744	-	△ 374,934	-	△ 343,895	-	91.7		
特別収支	資産売却差額	295	0.0	428	0.0	10	0.0	39	0.0	2,044	0.0	5,241.0	
	その他の特別収入	43,025	0.6	190,129	2.7	14,536	0.2	6,233	0.1	146,931	2.1	2,357.3	
	計	43,321	0.6	190,557	2.7	14,546	0.2	6,273	0.1	148,975	2.2	2,374.9	
	資産処分差額	536,838	7.2	7,659	0.1	16,806	0.3	19,974	0.3	21,962	0.3	110.0	
	その他の特別支出	4,563	0.1	3,495	0.1	1,216	0.0	376	0.0	3,818	0.1	1,015.4	
計	541,401	7.3	11,154	0.2	18,022	0.3	20,351	0.3	25,780	0.4	126.7		
特別収支差額	△ 498,080	-	179,402	-	△ 3,476	-	△ 14,077	-	123,194	-	△ 875.1		
基本金組入前当年度収支差額	△ 655,852	-	475,639	-	5,268	-	△ 389,012	-	△ 220,700	-	56.7		
基本金組入額合計	△ 398,397	-	△ 541,630	-	△ 745,614	-	△ 312,419	-	△ 2,854,408	-	913.6		
当年度収支差額	△ 1,054,249	-	△ 65,990	-	△ 740,346	-	△ 701,431	-	△ 3,075,109	-	438.4		
前年度繰越収支差額	2,727,903	-	1,745,653	-	1,702,548	-	1,045,249	-	405,667	-	38.8		
基本金取崩額	72,000	-	22,885	-	83,047	-	61,848	-	2,705,727	-	4,374.8		
翌年度繰越収支差額	1,745,653	-	1,702,548	-	1,045,249	-	405,667	-	36,285	-	8.9		

(参考)

事業活動収入計	6,795,003	100.0	7,029,274	100.0	6,607,811	100.0	6,484,230	100.0	6,889,581	100.0	106.3
事業活動支出計	7,450,855	100.0	6,553,635	100.0	6,602,543	100.0	6,873,242	100.0	7,110,282	100.0	103.4

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

*学校法人全体の事業活動収支計算書においては、各部門間の内部取引収入および支出は相殺されている。

*各科目の構成比率は、事業活動収入計及び支出計に対して、それぞれに占める割合となっている。

3 過去5ヵ年の貸借対照表(学校法人全体)

(単位：千円)

科目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度			
	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)	
資産の部	固定資産	43,057,370	87.4	43,944,103	88.5	45,186,981	90.9	44,981,105	91.0	44,799,547	90.9	99.6
	有形固定資産	22,966,464	46.6	22,779,547	45.9	23,920,708	48.1	23,690,938	47.9	23,459,533	47.6	99.0
	特定資産	20,020,170	40.6	20,890,240	42.1	21,012,073	42.3	21,043,255	42.6	21,117,332	42.9	100.4
	その他の固定資産	70,735	0.1	274,315	0.6	254,200	0.5	246,911	0.5	222,681	0.5	90.2
	流動資産	6,204,679	12.6	5,719,188	11.5	4,527,319	9.1	4,442,640	9.0	4,466,062	9.1	100.5
	うち現金預金	6,137,758	12.5	5,678,350	11.4	4,483,605	9.0	4,319,827	8.7	4,332,565	8.8	100.3
	資産の部合計	49,262,049	100.0	49,663,292	100.0	49,714,300	100.0	49,423,745	100.0	49,265,610	100.0	99.7

(単位：千円)

科目	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度			
	金額	構成比率 (%)	対前年比 (%)									
負債の部	固定資産	1,604,129	3.3	1,740,147	3.5	1,783,226	3.6	1,753,254	3.5	1,915,265	3.9	109.2
	流動負債	1,347,132	2.7	1,136,717	2.3	1,139,380	2.3	1,267,808	2.6	1,168,362	2.4	92.2
	うち前受金	637,705	1.3	518,985	1.0	481,689	1.0	472,788	1.0	483,718	1.0	102.3
	負債の部合計	2,951,262	6.0	2,876,865	5.8	2,922,606	5.9	3,021,063	6.1	3,083,628	6.3	102.1
純資産の部	基本金	44,565,133	90.5	45,083,878	90.8	45,746,445	92.0	45,997,015	93.1	46,145,696	93.7	100.3
	第1号基本金	40,804,133	82.8	41,019,878	82.6	41,374,445	83.2	41,616,015	84.2	41,743,696	84.7	100.3
	第2号基本金	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	—
	第3号基本金	3,330,000	6.8	3,630,000	7.3	3,930,000	7.9	3,930,000	8.0	3,930,000	8.0	100.0
	第4号基本金	431,000	0.9	434,000	0.9	442,000	0.9	451,000	0.9	472,000	1.0	104.7
	繰越収支差額	1,745,653	3.5	1,702,548	3.4	1,045,249	2.1	405,667	0.8	36,285	0.1	8.9
	純資産の部合計	46,310,787	94.0	46,786,427	94.2	46,791,694	94.1	46,402,682	93.9	46,181,981	93.7	99.5
負債の部、純資産の部合計	49,262,049	100.0	49,663,292	100.0	49,714,300	100.0	49,423,745	100.0	49,265,610	100.0	99.7	

*千円未満を切り捨てて表示しているため、合計額が一致しないことがある。

人道の理念に基づき、日本の看護・介護

学園の沿革

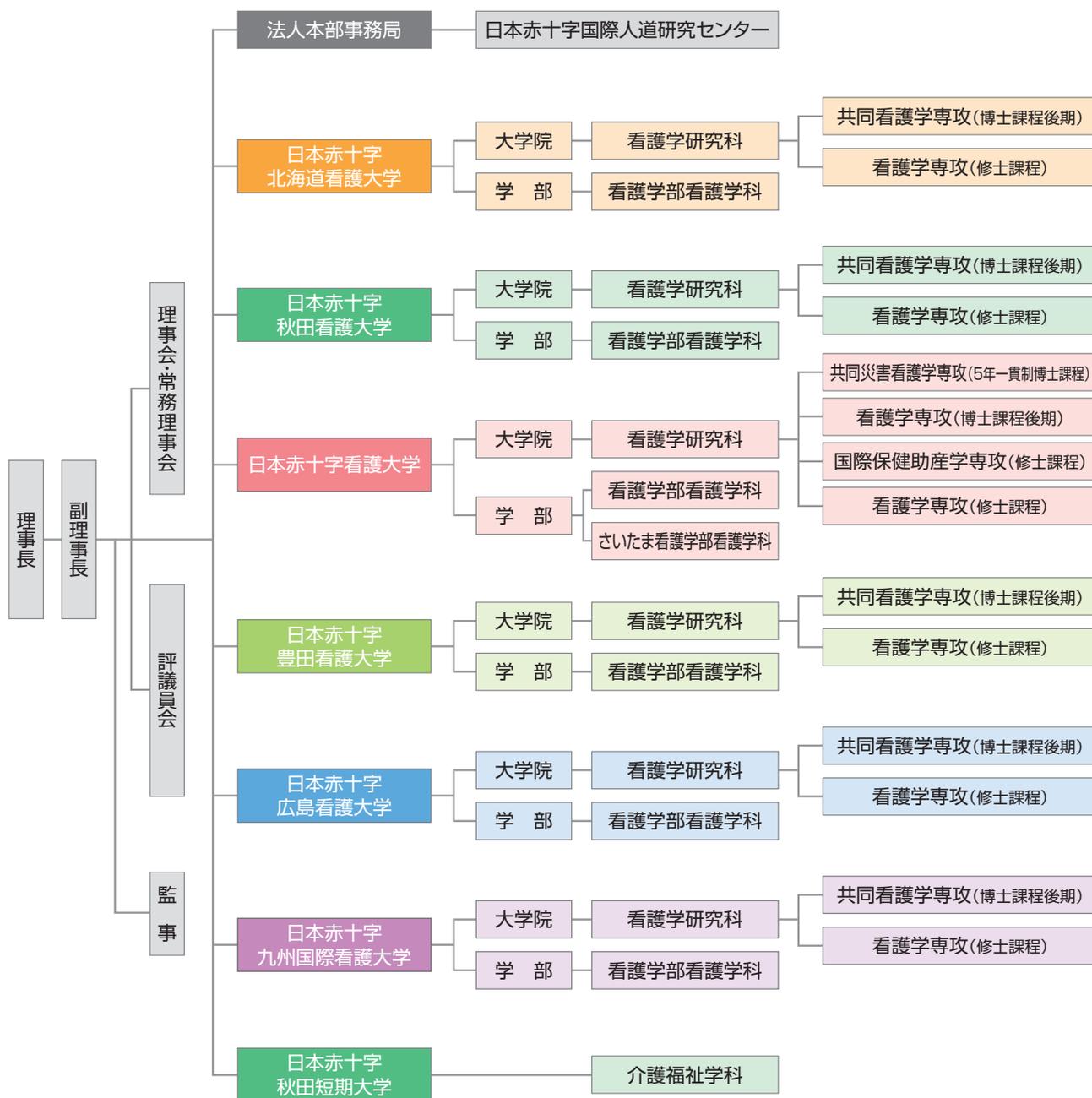
令和3年3月31日 現在

明治10年 (1877年)	博愛社を設立	
明治20年 (1887年)	博愛社から日本赤十字社に改称	
明治23年 (1890年)	日本赤十字社看護婦養成所を設立	
昭和21年 (1946年)	日本赤十字女子専門学校に昇格 財団法人日本赤十字女子専門学校を設立	
昭和29年 (1954年)	財団法人日本赤十字女子専門学校を学校法人日本赤十字女子短期大学に改組 日本赤十字女子短期大学を設立	
昭和41年 (1966年)	学校法人日本赤十字女子短期大学を学校法人日本赤十字学園に改称 日本赤十字女子短期大学を日本赤十字中央女子短期大学に改称 日本赤十字武蔵野女子短期大学看護学科を開設	
昭和50年 (1975年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を開設	
昭和53年 (1978年)	学校法人日本赤十字学園大阪高等看護学校を学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校に改称	
昭和61年 (1986年)	日本赤十字看護大学看護学部看護学科を開設	
昭和63年 (1988年)	日本赤十字中央女子短期大学を閉校	
平成元年 (1989年)	日本赤十字愛知女子短期大学看護学科を開設 学校法人日本赤十字学園大阪看護専門学校を閉校	
平成5年 (1993年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成7年 (1995年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程後期を開設	
平成8年 (1996年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科・介護福祉学科を開設	
平成9年 (1997年)	日本赤十字武蔵野女子短期大学を日本赤十字武蔵野短期大学に改称 日本赤十字愛知女子短期大学を日本赤十字愛知短期大学に改称	
平成11年 (1999年)	日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科を開設	
平成12年 (2000年)	日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科を開設	
平成13年 (2001年)	日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科を開設	
平成15年 (2003年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成16年 (2004年)	日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成17年 (2005年)	日本赤十字看護大学と日本赤十字武蔵野短期大学が統合	
平成18年 (2006年)	日本赤十字愛知短期大学を閉校	
平成19年 (2007年)	日本赤十字武蔵野短期大学を閉校 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成21年 (2009年)	日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科を開設	
平成22年 (2010年)	日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成23年 (2011年)	日本赤十字秋田短期大学看護学科を閉科 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科修士課程を開設	
平成26年 (2014年)	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科共同災害看護学専攻博士課程を開設 (国公立5大学の共同教育課程)	
平成28年 (2016年)	日本赤十字北海道看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字秋田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字豊田看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字広島看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 日本赤十字九州国際看護大学大学院看護学研究科共同看護学専攻博士課程後期を開設 (赤十字5大学の共同教育課程)	
令和2年 (2020年)	日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科を開設	

福祉を支える多くの人材を育成しています。

学園の組織

令和3年3月31日 現在



教職員の概要

令和2年5月1日 現在

(単位:人)

教授	准教授	講師	助教	助手	事務職	教職員合計
92	62	69	82	21	183	509

役員・評議員一覧

令和3年3月31日 現在

◆理事(13人)

理事長	大塚 義治	平成17年4月就任	日本赤十字社 社長
副理事長	富田 博樹	平成31年4月就任	日本赤十字社 元顧問(日本赤十字社 副社長)
常務理事	宮原 保之	平成31年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
	弘川 摩子	平成30年4月就任	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
	鈴木 一寿	令和2年4月就任	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長
	守田 美奈子	令和2年4月就任	日本赤十字看護大学 学長
理事	河口 てる子	平成31年4月就任	日本赤十字北海道看護大学 学長
	田村 由美	令和2年4月就任	日本赤十字広島看護大学 学長
	高橋 高美	平成27年4月就任	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事
	中川原 米俊	平成26年11月就任	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長 (日本赤十字社東京都支部 事務局長)
	片田 範子	平成30年4月就任	学校法人関西医科大学 関西医科大学 看護学部長・研究科長
	木曾 功	平成26年4月就任	学校法人加計学園 千葉科学大学 学長
	久保 公人	平成30年4月就任	学校法人尚美学園 理事長・尚美学園大学 学長

◆監事(2人)

監事	竹内 賢治	令和2年4月就任	日本赤十字社 参与
	岡原 宏一	令和2年4月就任	公認会計士岡原事務所

◆評議員(27人)

安藤 広子	日本赤十字秋田看護大学・日本赤十字秋田短期大学 学長	大塚 義治	日本赤十字社 社長
鎌倉 やよい	日本赤十字豊田看護大学 学長	宮原 保之	日本赤十字社 医療事業推進本部 本部長
小松 浩子	日本赤十字九州国際看護大学 学長	弘川 摩子	日本赤十字社 医療事業推進本部 副本部長兼看護部長
村瀬 智子	日本赤十字豊田看護大学 看護学部長	中川原 米俊	日本赤十字社全国支部事務局長会 会長 (日本赤十字社東京都支部 事務局長)
百田 武司	日本赤十字広島看護大学 研究科長	石川 浩三	日本赤十字社病院長連盟 会長(大津赤十字病院 院長)
相原 義孝	日本赤十字北海道看護大学 事務局長	庄野 泰乃	赤十字医療施設看護部長会 会長 (徳島赤十字病院 副院長兼看護部長)
鈴木 一寿	学校法人日本赤十字学園 法人本部 事務局長	井伊 久美子	公益財団法人日本看護協会 副会長(香川県立保健医療大学 学長)
金 愛子	元 石巻赤十字病院 副院長兼看護部長	飯野 奈津子	日本放送協会 解説委員
高島 和歌子	学校法人華苑学園 熊本看護専門学校 学校長	小野 太一	国立大学法人政策研究大学院大学 教授
高橋 高美	一般財団法人日本赤十字社看護師同方会 常務理事	木曾 功	学校法人加計学園 千葉科学大学 学長
田島 恵子	元 深谷赤十字病院 副院長兼看護部長	富田 博樹	日本赤十字社 元顧問(日本赤十字社 副社長)
中野 玲子	学校法人藍野大学 医療保健学部看護学科 特任教授	中島 正治	公益財団法人結核予防会 理事
畠山 悦子	元 長野赤十字病院 看護部長	吉田 元治	日本赤十字社 参与
望月 律子	元 静岡赤十字病院 副院長兼看護部長		

※役員賠償責任保険契約について

当法人は、理事、監事及び評議員を被保険者とした役員賠償責任保険契約を締結しており、保険料は全額法人が負担しております。
なお、被保険者による違法行為、犯罪行為等に起因する損害等については、填補の対象外としています。

理事会・常務理事会・評議員会の開催状況

理事会	第1回(文書審議) 令和2年7月21日(火)※議決日 第3回(Web会議) 令和3年3月22日(月)	第2回(Web会議) 令和2年12月2日(水)
常務理事会	第1回(文書審議) 令和2年4月13日(月)※議決日 第3回 令和2年7月6日(月) 第5回(Web会議) 令和2年12月14日(月) 第7回(Web会議) 令和3年2月8日(月)	第2回 令和2年6月15日(月) 第4回(文書審議) 令和2年10月5日(月) ※議決日 10月12日(月) 第6回(Web会議) 令和3年1月12日(火) 第8回(Web会議) 令和3年3月1日(月)
評議員会	第1回(文書審議) 令和2年7月21日(火)※議決日 第3回(Web会議) 令和3年3月22日(月)	第2回(Web会議) 令和2年12月2日(水)

[各大学・短期大学の施設概要]

日本赤十字 北海道看護大学



住所 〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
 電話 0157-66-3311 URL <http://www.rchokkaido-cn.ac.jp/>
 施設面積 校地: 59,797m² / 校舎等: 16,993m²

日本赤十字 秋田看護大学・秋田短期大学



住所 〒010-1493 秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢17-3
 電話 018-829-4000 URL <https://www.rcakita.ac.jp/>
 施設面積 校地: 43,599m² / 校舎等: 13,771m²

日本赤十字 看護大学 (広尾キャンパス)



住所 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
 電話 03-3409-0875 URL <https://www.redcross.ac.jp/>
 施設面積 校地: 18,216m² / 校舎等: 15,695m²

(大宮キャンパス)



住所 〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合8-7-19
 電話 048-799-2747 URL <https://www.redcross.ac.jp/saitama>
 施設面積 校地: 2,704m² / 校舎等: 5,361m²

日本赤十字 豊田看護大学



住所 〒471-8565 愛知県豊田市白山町七曲12-33
 電話 0565-36-5111 URL <https://www.rctoyota.ac.jp/>
 施設面積 校地: 19,710m² / 校舎等: 17,954m²

日本赤十字 広島看護大学



住所 〒738-0052 広島県廿日市市阿品台東1-2
 電話 0829-20-2800 URL <https://www.jrchcn.ac.jp/>
 施設面積 校地: 29,882m² / 校舎等: 19,438m²

日本赤十字 九州国際看護大学



住所 〒811-4157 福岡県宗像市アスティ1-1
 電話 0940-35-7001 URL <https://www.jrckicn.ac.jp/>
 施設面積 校地: 34,456m² / 校舎等: 15,097m²





学校法人日本赤十字学園

[法人本部事務局]

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル西館6階

TEL.03-5472-2836 FAX.03-5472-2837

赤十字学園

検索

